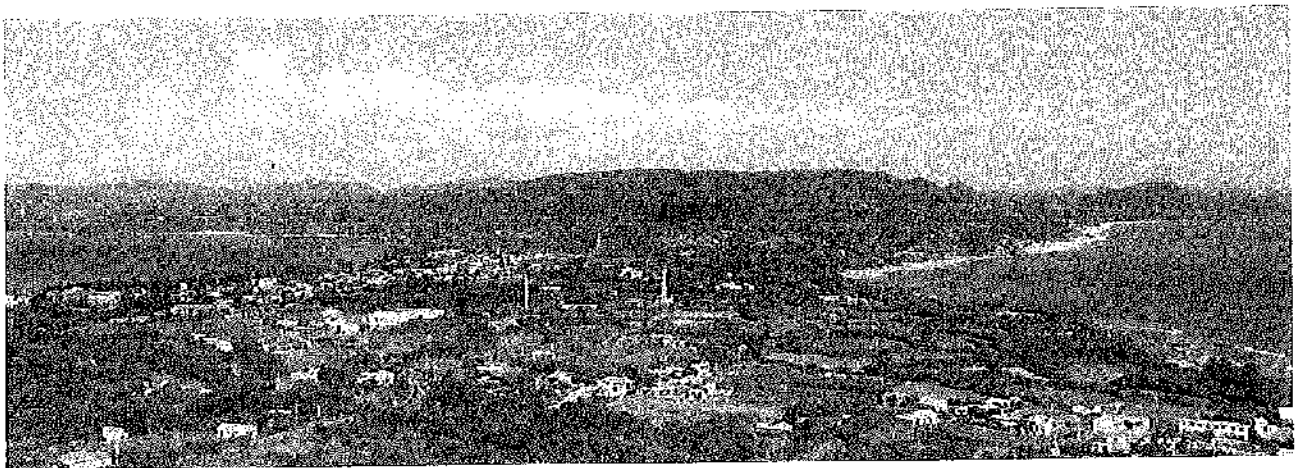


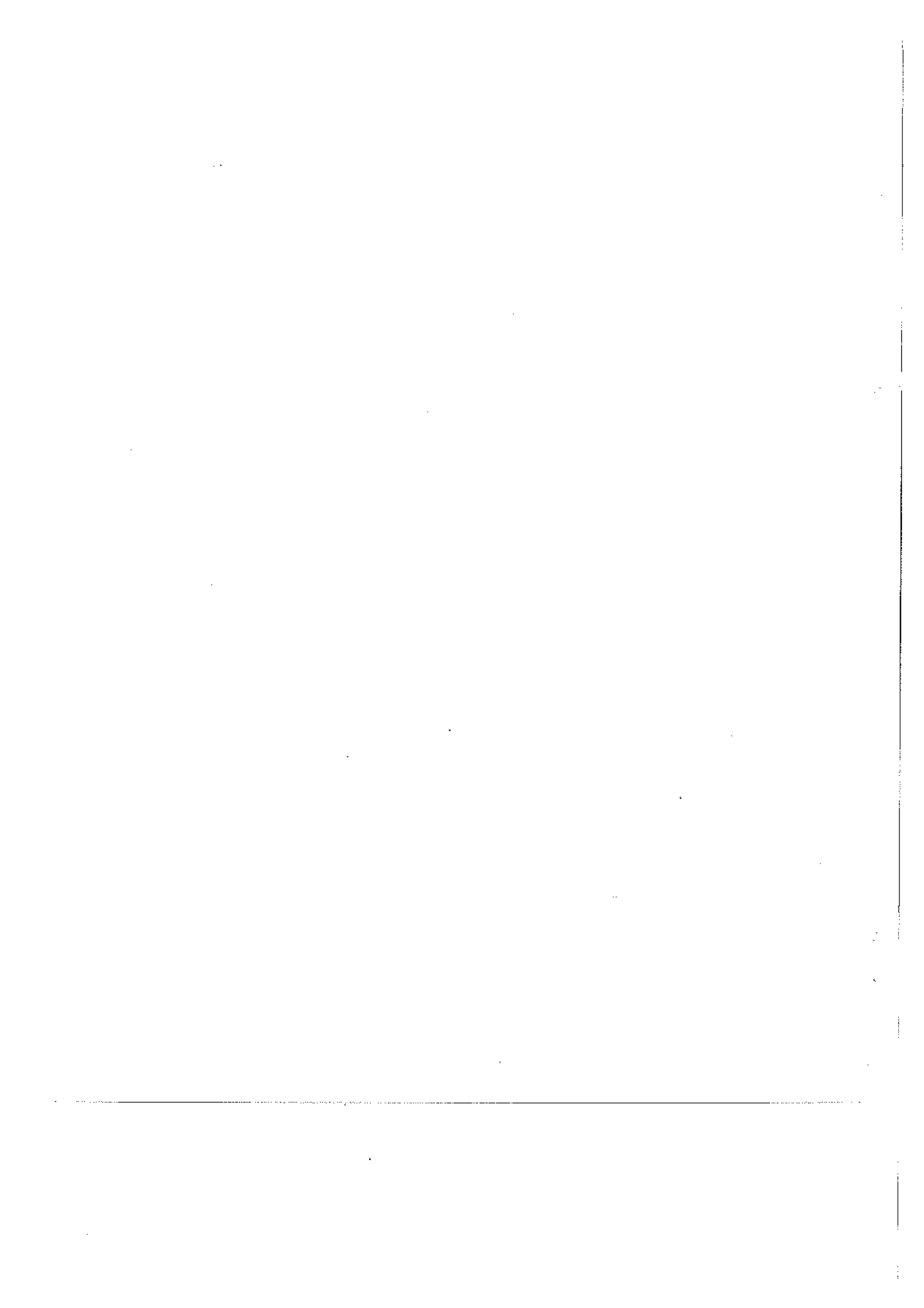
鹿児島県離島振興協議会「平成 29 年度 アイランドキャンパス事業」
東洋大学社会貢献センター「平成 29 年度 地域活性化活動支援事業」

「しまごはん」をつなぐ奄美大島観光ルートのご案内 報告書



平成 30 年 1 月

東洋大学国際学部



目次

1. プロジェクト概要	... 1
はじめに	
現地調査の参加メンバーと日程	
2. 事例対象地・奄美大島の龍郷町	... 5
鹿児島県の地勢	
奄美大島の地勢	
龍郷町の地勢、人口動態、観光、食産業の歴史と現状	
3. 龍郷で食を知る 1泊2日の旅	... 12
謎旅	
女子旅	
食・色・織	
4. 旅日記	... 57
5. 研修を終えて	... 60
6. 総括	... 69

付録:奄美大島写真集



1. プロジェクト概要

1.1 はじめに

本学部では、「現場主義」をコンセプトとして、国内外の様々な地域における現地調査を通じて地域振興のありようを実践的に検討してきた。例えば、石川県能登地域で自主的な課外活動として実施してきた「能登ゼミ」は、「SFS (Student-led Field Study)」として学部科目化し、能登にはじまったその舞台は、茨城、さらには、タイ、フィリピンなど国内外に広く展開している。学生らはこうした地域に自ら飛び込み、地域づくりに資する実践的な問題解決能力を養ってきた。実際、能登ゼミに参加した学生の中には、卒業後、能登地域に就職する者もみられた。

平成 29 年度より実施している本事業もまたこうした学生らの「地域づくり力」を養うことをねらっている。具体的には、地域の潜在的資源として郷土料理に着目し、①奄美大島や龍郷町に伝わる郷土料理「しまごはん」を発掘し、②「しまごはん」を楽しむ新たな観光ルートを企画することによって、③「食」を通じた地域振興策を検討することを目的とするものである。

昨年度は「しまごはん」の発掘を行なった。現地調査において、まず、龍郷町役場において観光振興の現状をインタビューした上で、町内 8 集落（玉里、下戸口、中勝、浦、赤尾木、大勝、安木屋場、秋名）において現地調査を実施し、ソテツ、芋、パパイヤそれぞれが集落や家庭において異なる料理法で食べられている、いわば「しまごはん」の多様性が明らかになり、また、3 集落において「種下ろし」に参加して食文化に触れる等、観光資源としての「しまごはん」の可能性を確認することができたが、一方、こうした各集落・家庭に伝わる郷土料理を観光資源とするには各集落をつなぐ広域的な観光ルートが必要であることも明らかになった。

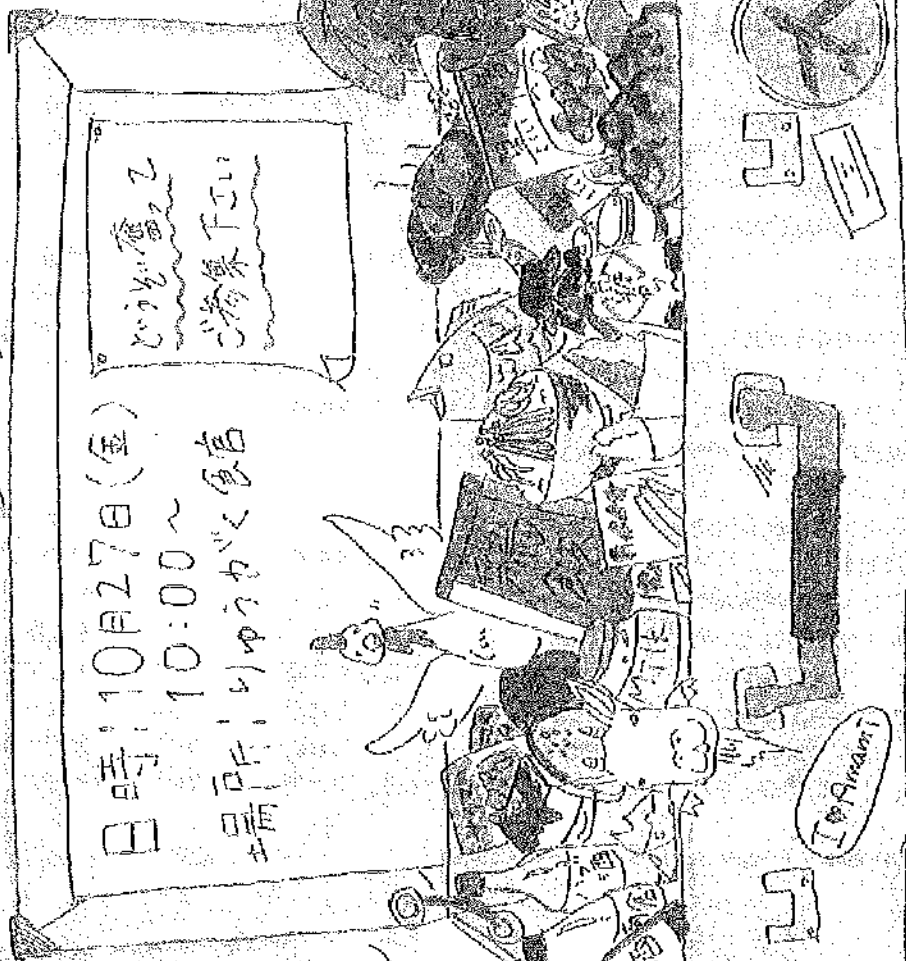
そこで、本年度の活動では、昨年度得られた知見をふまえて、「しまごはん」をはじめとする地域の潜在的資源を活かした観光ルートを企画することとし、学部を超えた 13 名の学生が参加した 10 月 23 日～27 日にかけての現地調査では課題として「龍郷町で食を味わう 1 泊 2 日、予算 5,000 円でのツアーの企画」を課した。学生らは短い期間ではあったが龍郷町じゅうを巡り、新たな観光ルートを提案した。

また、現地調査では、昨年度に引き続き、龍郷町役場や各集落の皆様をはじめとして数えきれぬ支援のおかげで、学生が現場から学ぶところは本報告書には収めきれないほど大きなものとなり、実際、本報告書における学生の筆致の端々から地域振興への熱い思いが感じられる。その一方、短期間の訪問であったこともあり、十分に理解しきれていないところもあるだろう。引き続きご指導いただければ幸いである。

龍郷の食を味わおう

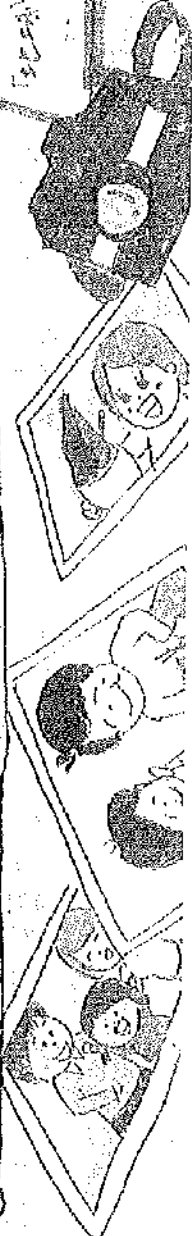
1月28日

龍郷 食の文化



日時: 10月27日(金)
場所: いりかき乙 食堂

東洋大学の学生
1人2日平均500円
龍郷の食を味わおう
新しい魅力を発見しよう



1.2 現地調査の参加メンバーと日程

今年度は、教員を含めて16名参加した(表1-1)。昨年もこの事業に参加した人はこの内の9名。皆それぞれ昨年遣り残したことや反省を活かすべく参加を決めた。1年生から4年生まで各3つのグループに分かれ活動した。奄美大島へ行くまでに昨年度よりも事前の準備をしっかりとって臨むことができた。普段は学科や学年が違い集うことが中々ない面々だが、この事業をきっかけに大きく輪が広がったように感じる。

表 1-1 参加メンバー

名前	ふりがな	学科	学年
志摩憲寿	Shima Norihisa	国際地域学科	教員
山崎義人	Yamazaki Yoshito	国際地域学科	教員
柏崎梢	Kashiwazaki Kozue	国際地域学科	教員
隅野由希絵	Sumino Yukie	国際地域学科	4
丸山萌香	Maruyama Mokka	国際地域学科	4
荻野弥結	Ogino Miyu	国際地域学科	4
湊優希	Minato Yuki	国際地域学科	4
藥袋愛美	Minai Megumi	国際地域学科	4
齊野平陽菜	Sainohira Hina	国際地域学科	3
中原銀太	Nakahara Ginta	国際観光学科	3
冨田真帆	Tomita Maho	国際地域学科	3
田中綾華	Tanaka Ayaka	地域総合専攻	3
山本詩織	Yamamoto Shiori	地域総合専攻	3
網中美里	Aminaka Misato	国際観光学科	2
吉満幸保	Yoshimitsu Yukiho	国際観光学科	2
竹内ひとみ	Takeuchi Hitomi	国際地域学科	1

昨年同様の時期に5日間で調査と成果報告会を行った(表1-2)。調査日数に限りがあったが、奄美大島DMOからの貴重なお話や、短時間で効率よく調査ができたりと有意義な時間が過ごせた。長いようであったという間に過ぎた5日間。しかし、昨年度以上の祭見が多くあった。台風の影響で行きも帰りもどうなるか?不安だったが、島民の皆様が温かく迎えてくださりとても感謝している。

表 1-2 現地調査日程表

月日	曜日	内容	場所
10月23日	月	13:25 成田空港 発 16:05 奄美空港 着 17:00 ホテルチェックイン 18:00 鶏飯ひさ倉で食事 19:30 買い出し 21:00 ミーティング 23:00 解散	龍郷
10月24日	火	9:00 集合 10:00 大島DMO訪問 12:00 昼食 13:00 名瀬市視察 14:30 龍郷町役場訪問 15:00 各ループ活動 19:00 夕食 23:00 ミーティング 24:00 解散	観光案内所、龍郷町役場、各集落
10月25日	水	9:00 集合 10:00~18:00 調査 13:00 昼食各班 19:30 夕食 23:00 ミーティング 24:00 解散	各集落
10月26日	木	10:00 集合 10:30 まとめ作業 13:00 昼食 14:00~17:00 まとめ作業 19:00 夕食 22:00~ まとめ作業	りゅうがく館
10月27日	金	9:00 集合、チェックアウト 9:30 発表準備 10:00~12:30 成果発表 「龍郷の食を知る旅コンペ」 13:00 昼食 15:00 それぞれ解散	りゅうがく館

2. 事例対象地・奄美大島の龍郷町

2.1 鹿児島県の地勢

鹿児島県は、日本本土の西南部に位置し、その総面積は約9,187平方キロメートルで全国第10位（28年10月1日時点）。気候区は温帯から亜熱帯に至り、全国の中でも平均気温が高く、温暖な気候に恵まれている。中央部を南北に霧島火山帯が縦断し、北部の霧島から南海のトカラ列島まで11の活火山が分布しており、豊富な温泉にも恵まれている。また、県下のほとんどの地域が火山噴出物であるシラス層によって厚く覆われており、温帯から亜熱帯へと広範囲におよんでいるので、気候も他の地域に比べ複雑で多岐にわたっている。年間の平均気温は18.5℃で1年をとおして暮らしやすい温暖な気候であり年平均気温は全国2位である。また、鹿児島県には、獅子島から与論島まで、南北約600キロメートルにわたって、人が住んでいる28の島々がある。（獅子島・伊唐島・諸浦島・長島・桂島・上瓶島・中瓶島・下瓶島・新島黒島・硫黄島・竹島種子島・馬毛島（現在有人島扱い）・屋久島・口永良部島口之島・中之島・平島・諏訪之瀬島・悪石島・小笠島・宝島喜界島・奄美大島・加計呂麻島・与路島・請島・徳之島・沖永良部島・与論島）これらの島々の総面積は全国第1位である（2014離島統計年報調べ）。約2,500平方キロメートルで、県の総面積の約27%を占めている。緑豊かな鹿児島島の離島は観光地としても有名である。鹿児島県の総人口は、1,648千人で全国24位である（27年国勢調査）。15歳未満の人口の割合は、全国平均が12.6%に対して鹿児島県は、13.5%で全国7位であり、65歳以上の高齢者の割合は、全国平均が26.6%に対して鹿児島県は、29.4%で全国19位である（27年国勢調査）。次に、鹿児島県を産業のデータから見ていくと、豚飼養頭数、竹林面積が全国1位であった。また、温泉の源泉、温泉利用の公衆浴場（いわゆる「銭湯」）の数がともに全国2位という温泉天国である。霧島や指宿の砂蒸し温泉は有名な地域である。一方で、大学進学率は全国で46位と非常に低い現状がある（28年度3月卒業生対象）。また、鹿児島県にはおいしい食材が多くあり、かごしま黒豚、鹿児島黒牛、黒さつま鶏、黒酢、黒糖、焼酎、ラーメン、トンコツ、さつまあげ、さつまいも、地鶏の刺身、キジナゴの刺身、カツオ料理、鶏飯、かるかん、かごしま茶、白熊などが有名で鹿児島ブランドとして指定されている。鹿児島島の暮らしには「黒」があふれており黒豚、黒牛、黒さつま鶏、クロマグロ、黒酢、黒砂糖、黒糖焼酎、黒薩摩（薩摩焼）といったように、黒がつくものが多い。また、南北600キロメートルに及ぶ温暖で広大な県土の中に、美しい海、山、川、豊富な温泉、多様な動植物などの優れた自然、多彩な歴史・文化などの観光資源に恵まれており、国内外から、年間約2,800万人の観光客が訪れる。海外から鹿児島県を訪れた外国人観光客は、年6万人から8万人で推移してきたが、2008年は13万1千人、2009年は9万人、2010年には17万人と大幅に増加している。特に韓国、台湾、香港といった東アジアからの観光客が全体の約8割を占めている。最近では、韓国の格安航空会社のイー・スター航空が、鹿児島・ソウル線を就航させ、気軽に韓国から来県しやすくなった。鹿児島空港への韓国LCCの就航は初めてで、これからますます観光客が増加すると期待されている。なお、鹿児島県では、海外からの観光客を飛躍的に増加させるとともに、これら観光客を温かく迎え心からもてなすために、観光関係団体・業界と行政が一体となって観光客誘致と受入体制の整備を推進している。例として、本格的なクルーズ時代を迎えようとしている中で、観光船の寄港誘致活動も積極的に展開しており、鹿児島港中央港区では、「南の拠点かごしま」にふさわしい国際交流拠点の形成を図るため、2007年9月に大型観光船の接岸施設「マリンポートかごしま」が完成した。桜島や、霧島の自然に触れながら温泉に行く。砂蒸し風呂や回転式そうめん流しで有名な指宿を訪れたり、歴史を感じられる資料館や史跡巡りをしたりする。そうして普段忙しい生活で疲れている人がリラックスできるようなゆっくりとした時間を過ごすことができる。また、鹿児島県の魅力を県の公式ホームページでは以下の3点にまとめている。「本物。鹿児島県」、「世界に誇る遺産群」、「九州新幹線で1直線かごしま」である。「本物。鹿児島県」とは、手つかずの大

自然や良質な温泉、安全・安心な食材、人情味あふれる県民性など、鹿児島県には人々を元気にする本物の素材にあふれていることをPRするイメージアップのキャッチコピーである。「世界に誇る遺産群」は、日本初の世界自然遺産である屋久島をはじめ、世界文化遺産の明治日本の産業革命遺産、また、現在世界遺産登録を目指している奄美大島、徳之島など多くの遺産が有名であり、鹿児島島の象徴となっている。さらに、2011年3月には、九州新幹線鹿児島ルートが全線開業し、博多駅と鹿児島中央駅は1時間17分で結ばれた。また、あわせて新大阪と鹿児島中央間に新幹線「さくら」の直行運転が開始され、最短3時間42分で結ばれている。

また、2018年の1月から明治維新150周年を記念して、NHK大河ドラマが「西郷どん」に決まり、鹿児島県内でもすでにそれにむけてイベントや施設の開設が行なわれており、これからの鹿児島県の取り組みや観光客の増加、などドラマの影響が期待されている。

参考文献

鹿児島県ウェブサイト <http://www.pref.kagoshima.jp/> 2018年1月8日参照

2.2 奄美大島の地勢

奄美大島は九州から南へ約380km離れた北緯28度の島で、九州と沖縄本島のほぼ中間に位置しており、奄美群島（奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、喜界島、徳之島、津水良部島、与論島）の中心的な島である。

鹿児島県(2017)によれば、奄美大島は奄美群島最大の島で、面積は712.35㎢で全群島面積の57.9%、人口は62,019人で群島総人口の54.2%を占める扇形の島であり現在、奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町の1市2町2村からなっている。

群島の首都的性格を有する奄美市名瀬は、奄美大島の西北部に位置し、航路距離で鹿児島港から383km、那覇港から352kmの地点にあり、名実共に群島の政治、経済、交通の中心地である。ここには県大島支庁をはじめ、国、県の各出先機関が集中しており、また貨物の集散地として本地域を中心に商業、運輸業、製造業、建設業等が盛んに行われている。山岳中の最高峰は湯湾岳(694m)で、島の中央からやや西側にそびえ立っており、油井岳、松長山、烏ヶ峰岳等の400m以上の山岳とともに本島の脊柱部を構成している。河川は、東海岸の住用湾に注いでいる住用川及び役勝川のほか、河内川、川内川、大川などがあるが、そのほとんどは流路延長の短い急流河川である。海岸線は、概して良湾良港に恵まれている。なかでも名瀬港は群島唯一の重要港湾で、貨客船の出入が頻繁であり、30,000トン級の岸壁1バースが平成16年4月供用され10,000トン級の岸壁2バースが整備されているほか、クルージング需要に対応するための整備が進められるとともに、港湾機能の充実を図るため本港地区の耐震岸壁及び沖防波堤の整備が進められている。また、古仁屋漁港は5,000トン級の船舶が接岸可能である。道路は、本島道路網の骨格である国道58号をはじめ主要地方道名瀬瀬戸内線他3路線、一般県道佐佐万原赤木名瀬他8路線を着実に整備している。空港は、奄美市笠利町に奄美空港が昭和63年7月10日開港(旧空港:昭和39年6月1日開港)し、東京(羽田)ー奄美間、大阪(伊丹)ー奄美間、平成26年7月1日より、東京(成田)ー奄美間をLCC(格安航空会社)がジェット機で就航しているほか、鹿児島ー奄美間、那覇ー奄美間、福岡ー奄美間で就航している。産業としては、さとうきび、野菜、果樹、肉用牛を主体とした農業と黒糖焼酎、大島紬が主なものであり、特産物としては大島紬、たんかん、パッションフルーツ、マンゴー、黒糖焼酎等がある。また、瀬戸内町、宇検村では、真珠、クロマグロ等の魚類の養殖が行われている。また、

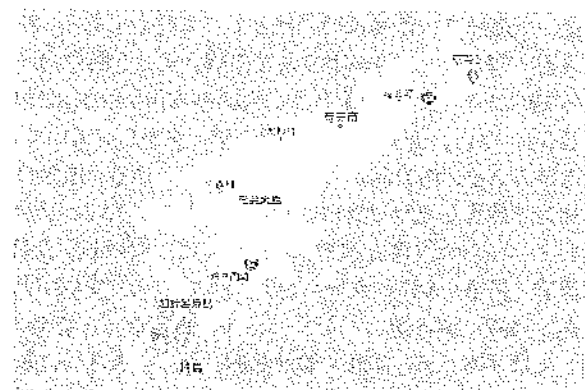


図 2-1 奄美大島(出典:Google map)

本島北部地域には県営かんがい排水事業笠利東部地区により須野ダムが完成し、末端畑地かんがい施設も一部を残し整備が完了しており、畑かん営農による農業振興が図られつつある。地下資源は、マンガン、銅、金、銀、石灰石等があるが、企業化はされていない。自然は、猛毒で知られているハブや、天然記念物として保護されているアマミノクロウサギ、オオトラツグミ、ルリカケス（昭和40年5月鹿児島県島に指定）、アカヒゲ、オカヤドカリ、アマミイシカワガエルなどの他、絶滅危惧種のリュウキュウアユ、アマミヤマシギ、アマミマルバネクワガタや奄美大島の固有種であるアマミセイシカ、アマミエビネなど、貴重な動植物が多く生息している。

参考文献

鹿児島県ウェブサイト <http://www.pref.kagoshima.jp/> 2018年1月8日参照

2.3 龍郷町の地勢、人口動態、観光、食産業の歴史と現状

(1) 地勢

龍郷の総人口は6047人、男2925人、女が3122人、世帯数は3053人である。（平成29年度11月末現在）沖縄本島と本土との中間的な位置にあり、かつては黒潮文化の中継地としての役割を果たし、近世では、西郷隆盛が上陸したことで知られる阿丹崎湊（あたんざきみなと）が、本土とのさまざまな面においての窓口となっていた。気候は亜熱帯の海洋性気候で年平均気温は21度ほど。降水量は年に3,000ミリに近く、湿度が年平均75%と高いのが特徴的である。この特異な気候により、奄美固有の動植物が育まれている。伝統産業大島紬の代表的な柄である「龍郷柄」、「秋名バラ」発祥の町であり、これまで大島紬のまちとして発展してきた。安木屋場の群生地にあるソテツの本数は約6万本とも言われ、山肌一面に広がる光景は圧巻である。ソテツは第2次世界大戦の前後までは、民衆の飢餓を救う貴重な食料源で現在でも、「ナリ粥」や「ナリ味噌」として口にすることが出来る。群生地のバショウは「イトバショウ」という種類である。このイトバショウから採られる繊維は、昔、衣服の原料として利用されていた。龍郷町は大島紬の伝統的な銘柄である、「龍郷柄」と「秋名バラ」の発祥の地でもある。「龍郷柄」はソテツの葉とハブを図案化した細かい連続模様で、娘を嫁がせる時に持たせたと言われている。秋名の伝統柄「秋名バラ」の「バラ」は琉球語でザルを意味し、全体に黒っぽいザルの格子柄に赤や青の十字が交差した模様で、全体的に落ち着いた雰囲気だが、近づくとアクセントの十字が、味わい深い華やかさをかもし出す。それぞれの柄の大きさは、玉（たま）で数える。この玉の数が少なくなるほど大柄になり、柄が大きくなるほど若者向けとなる。近年は空港と名瀬の市街地へのアクセスの良さから、他市町村からの転居者が多く、人口が減少している市町村が多い中、本町ではほぼ横ばいで推移している。

龍郷町には伝統ある祭事がいくつかある。「種おろし」は、翌年の豊作を祈願するとともに、一年間の締めくくりとして各家庭を踊り締め、繁栄を祈る行事である。昔は、各家々を回り夜通し踊り明かしていたが、現在は集落ごとに多少異なるが、新築の家などを中心に敬軒を回るといったかたちが多くなっている。迎えた家では、料理や飲み物が提供され老若男女、夜遅くま

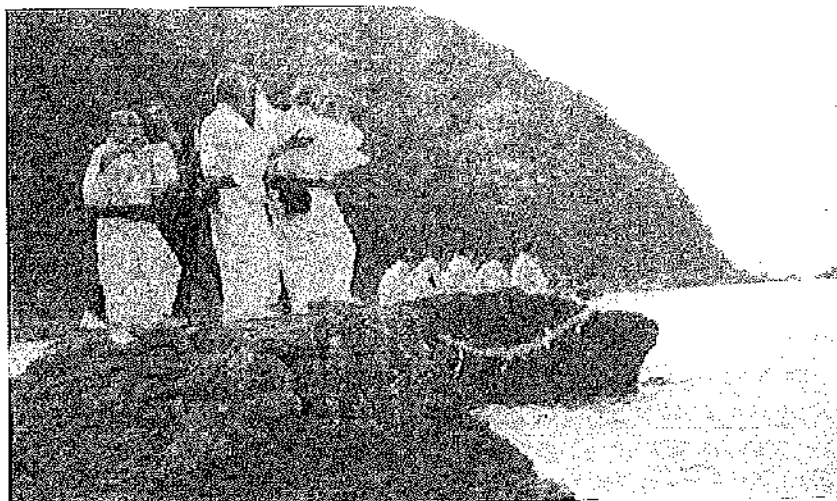


図2-2 平瀬マンカイ(出展:龍郷町ウェブサイト)

で踊り続ける。「種おろし」は、集落の親睦を深めるうえにおいても、大事な行事となっている。「秋名アラセツ行事」は、山と海から稲蓋（いなだま）を招いて五穀豊じょうに感謝し、来年の豊作を祈願する祭りである。夜明けと共に片屋根を搦り倒して豊作を祈る「ショチョツマ」と、秋名湾两岸にある「神（カミ）ヒラセ」と「女童（メヲベ）ヒラセ」と呼ぶ2つの岩で豊作を祈る「平瀬マンカイ」がある（図2-2）。

(2) 人口動態

龍郷は沖縄本島と本土との中間的な位置にあり、かつては黒潮文化の中継地としての役割を果たし、近世では、西郷隆盛が上陸したことで知られる阿丹崎湊（あたんざきみなと）が、本土とのさまざまな面においての窓口となっていた。気候は亜熱帯の海洋性気候で年平均気温は21度ほど。降水量は年に3,000ミリに近く、湿度が年平均75%と高いのが特徴的だ。この特異な気候により、奄美固有の動植物が育まれている。伝統産業大島紬の代表的な柄である「龍郷柄」、「秋名バラ」発祥の町であり、これまで大島紬のまちとして発展してきました。近年は空港と名瀬の市街地へのアクセスの良さから、他市町村からの転居者が多く、人口が減少している市町村が多い中、本町ではほぼ横ばいで推移している。

龍郷町の人口は、平成19年から28年で見て19年から24年までは増加している。しかし、25年から26年この1年間で50人ほど減少している。26年から28年にかけては50人減った分また50人増えている傾向にあった。19年に比べると250人も増えている。

世帯数は人口とは比例せず人口は増えているにもかかわらず、世帯数は減少している。世帯数は、19年から20年にかけては70世帯増えているが、20年から25年にかけては緩やかに減ってきているが、25年から26年にかけて人口も減少しているのと同時に、世帯数も激減している。26年から28年の2年間で人口は増加しているにもかかわらず、世帯数は緩やかに減少している。

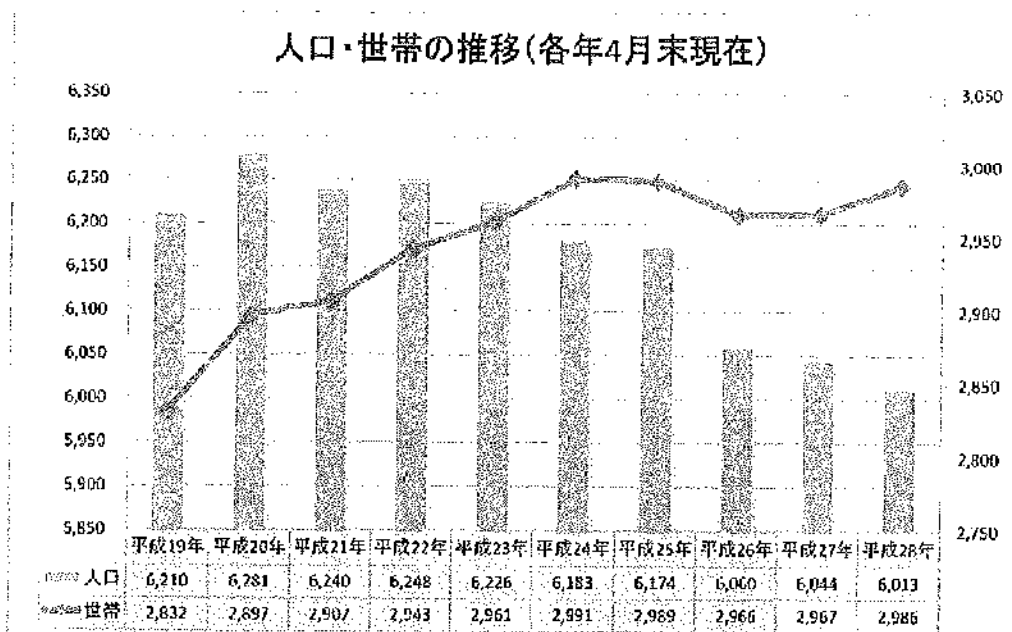


図2-3 龍郷町の人口と世帯数(出典:龍郷町ウェブサイトより作成)

(3) 観光

龍郷町の観光資源として、奄美自然観察の森、奄美大島紬村、赤尾木湾、奄美クレーター、本茶峠桜並木、ハートロックなどが挙げられる（図2-4）。奄美自然観察の森を代表として述べると、平成27年度の入場者数は7562人。過去10年間の推移をみると、平成23年度まで一貫して減少し、その後増加に転じ、一時的な減少もみられているが、直近の2年間はほぼ横ばいで推移している。

龍郷町では平成29年3月の「奄美群島国立公園」指定や、平成30年NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映が決定するなど、観光誘客拡大の好機が見込まれる大きな転換期を迎えている。この好機を最大限に活かし、観光振興による交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげていくため、平成27年4月7日に龍郷町の観光振興の方向性と具体的な行動計画を示した「龍郷町観光振興計画」を策定した。それにあたり、町民や町内に所在する事業所等の本町観光に対する考え方やニーズを把握するため、町民、町内事業所を対象としたアンケート調査を実施した。アンケート調査の中で、龍郷町の観光において誇れるものについては、「手広海岸や倉崎ビーチなどの美しい海」が69.2%で最も多く、次いで「奄美自然観察の森」が62.4%、「本場奄美大島鮎などの伝統工芸」が58.5%、「ふるさと祭り、秋名アラセツ行 事などの祭り・行事」が54.8%の順となっている。

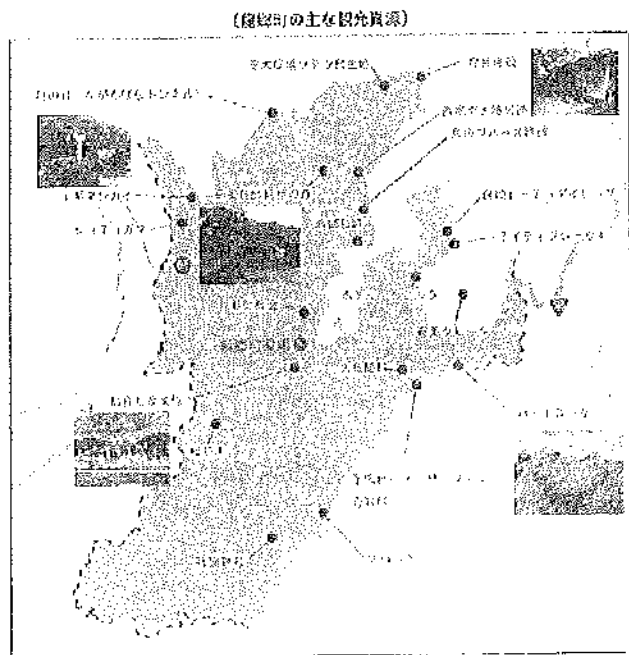


図2-4 龍郷町の主な観光資源(出典:龍郷町ウェブサイト)

ハートロック

- ・ 住所：鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木

ハートロックとは本町赤尾木集落の東側に面する海岸、東海岸にある潮だまりのこと。干潮時に潮だまりに海水が残ることで、ハートの形に見える。Instagram が流行している今、映える写真が撮れるということで若い女性に大人気のスポットになっている。

奄美自然観察の森

- ・ 住所：鹿児島県大島郡龍郷町円 1193
- ・ 営業時間：9時～16時
- ・ 入園料：無料(但し、ガイド希望の場合は一人100円)

奄美特有の植物、野鳥、昆虫などの観察ができる公園。亜熱帯広葉樹が生い茂り、家族で楽しめる自然観察園や昆虫の森などのほか、フィールドアスレチックのコースがあり、遊歩道で結ばれている。展望台からは龍郷湾と雄大な山々が一望でき、絶景スポットとなっている。

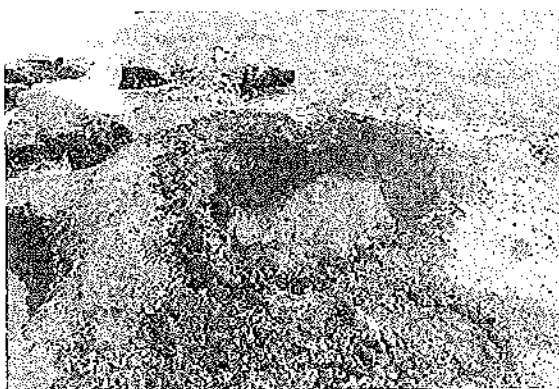


図2-5 ハートロック

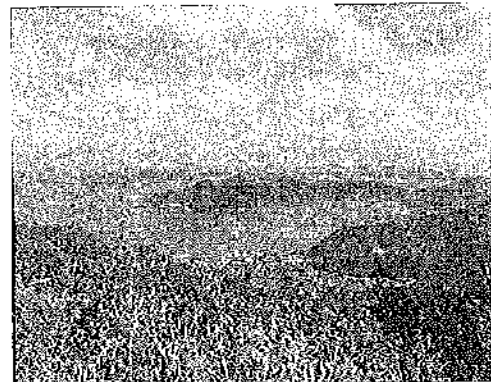


図2-6 展望台からの景色

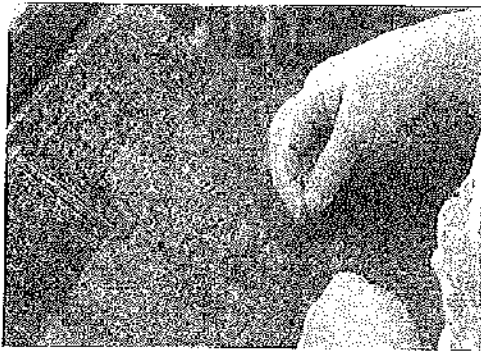


図 2-7 大島紬

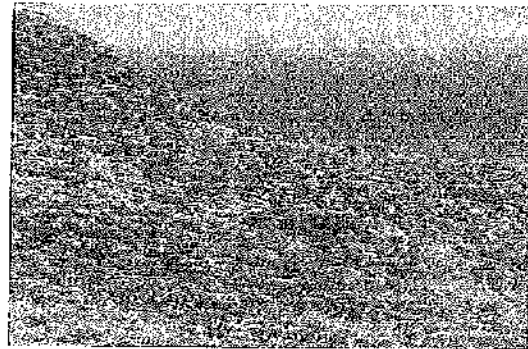


図 2-8 ソテツ・バショウの群生地

大島紬村

- ・ 住所：鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木 1945
- ・ 営業時間：9時～18時(夏季)、9時～17時(冬季)
- ・ 料金：入場料…大人 500 円、小人 200 円
染体験…ハンカチ 1080 円、Tシャツ 2160 円

この施設がある赤尾木は泥染発祥の地で、現在日本の文化遺産となっている。本場奄美大島紬を代表する泥染、手織りが体験できる他、本場奄美大島紬の着付け体験を行うこともできる。

ソテツ・バショウの群生地

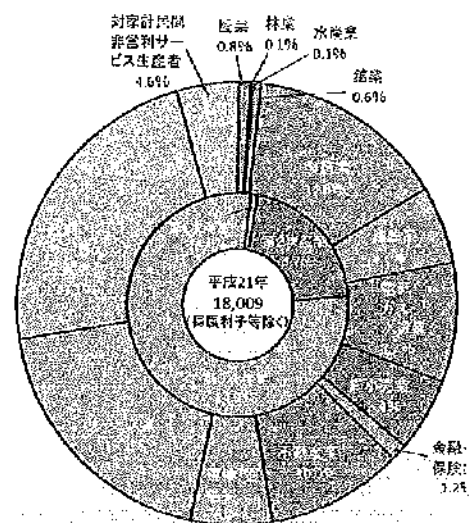
- ・ 住所：鹿児島県大島郡龍郷町安木屋場

安木屋場の山肌一面にソテツとバショウが生い茂り、見るものを圧倒する光景が広がっている。その本数は約 6 万本に及ぶと言われている。昔、ソテツは民衆の飢饉を救う食糧に、バショウは衣服の繊維として活用されていた。

(4) 食産業の歴史と現状

奄美大島は本土・沖縄本島からも離れている。その結果、現在に至るまでの長い歴史の間において奄美大島は、独自の文化の発展を遂げてきた。

奄美大島の古代時代頃の主な食料は、ヤコウ貝や山で取れる野生の動物などで、人々は食料を求め、島の南へと生活域を広げていった。大和朝廷時代ごろになると中国や琉球、本土の朝廷との交流が始まり、大和朝廷に名産品を献上するなどの記録が残っており、様々な資料に島の存在が明記されるようになった。このころまで奄美大島では狩猟採集が続けられていたが、その後、「アジコ」と呼ばれる按司の割拠時代ごろには米を食べていたとされている跡が残っている。そして、1429 年から琉球に支配される時代が続いたのち、1609 年に沖縄とともに薩摩藩に支配されるようになっていった。このころにはサトウキビによる黒糖づくりが盛んになっていたが、薩摩藩による黒糖の総買い上げが行われるなど農民は苦しい生活が強いられた。当時の主食は主にサツマイモなどのイモ類であったが、飢饉のときにはソテツを嚙みかきして取れたでんぷんで粥を作るなど食料の足しにしていた。しかし、このころに黒糖焼酎がつくられ、住民たちはそれを密造していた。そして江戸時代末期、黒糖の値段が下がってくると薩摩藩はより値段の高い白糖を作らせるため白糖工場を作り、更なる利益につなげようとしていた。工場は瀬留(龍郷町)、金久(名瀬市)、須占(宇検村)、久慈(瀬戸内町)の 4カ所に設置されたが、台



(資料：平成 21 年度市町村民所得推計)

図 2-9 産業別龍郷町内総生産額

風の被害や薪の不足が原因で5年以内に閉鎖になった。その後、明治時代になっても黒糖の販売を独占されるなど支配は続き、それは1940年代まで続いた。

そして、現在の龍郷町における食産業の実態については図2-9のとおりである。龍郷町では食産業は農業、水産業の2つの産業が中心にある。しかし、両方合わせても全体の0.9%である。また、産業別事業所の状況のデータ（龍郷町2016）では、農業と林業の事業所数が3で、漁業の事業所数が2であった。一番多いのが卸・小売業で112の事業所数がある。これらのデータから考えると、龍郷町では盛んに食産業がなされていないことがわかる。

私たちが調査しているときも、調査対象の食材をどこで手に入れているのか聞いたところ、購入しているという回答が多かった。北部の等利町では多くの作物が生産されているらしいが、龍郷町では高齢者が増えていることも要因かもしれないが、農業や漁業に従事する人が少なくなっている。

参考文献

龍郷町奄美遺産活用事業実行委員会（2017）「龍郷町シマ（集落）遺産調査報告書」

奄美市ウェブサイト <https://www.city.amami.lg.jp/> 2017年11月14日参照

龍郷町ウェブサイト <http://www.town.tatsugo.lg.jp/> 2018年1月10日参照

3. 龍郷で食を知る 1泊2日の旅

3.1 謎旅(丸山萌香、富田真保、齊野平陽菜、網中美里)

(1) はじめに

現在、若者の旅行が減少している。国土交通省によると、若者にとって、旅行は目的ではなく、「何か」をするための手段になりつつある。どこかに行く、何かを見るというレベルでは目的にはならず、「〇〇の効能があるから温泉に行く」、「△△を学ぶために××工場見学に行く」、「◇◇に効くパワースポットに行く」、「この時期しか味わえない□□を目当てに××工場見学に行く」、「◇◇に効くパワースポットに行く」、「この時期しか味わえない□□を食べる」、「体験したことのない雪遊びをしに◇◇へ」、「××で社会貢献したい」など、旅行という抽象的な目的にとどまらず、観たい・知りたい・参加したい・やりたい・体験したいという具体的な目的を明確にして



写真3-1 メンバー

あげる必要がある。したがって、若者を引き付けるコンテンツの開発、見せ方が若者旅行振興の一つの鍵である、という調査結果を発表している。ただ旅行に行っても景色を見て非現実空間を味わうだけではなく、その土地ならではの観光資源を使ったミッション型や体験型、実践型などのツアーの需要が増えつつあるようだ。その背景には SNS の普及もある。若者は情報源として、ネット、雑誌、ロコミの3つを使い分けている。エリアや観光スポット情報は雑誌、食べ物や飲食店はネット検索・ブログ・友人ロコミを活用。実際に体験した人の感想やロコミ、写真など、現在では見ず知らずの人でもそのキーワードで検索するだけで閲覧することが可能である。従って、旅行者の生身の情報が即座に日本全国、世界中に配信され、人々の観光意欲を掻き立てる。そして、世間では「ミステリーツアー」というものが存在する出発当日までどこに行くかわからず、人々をドキドキ・わくわくさせ、温泉やグルメに観光に、魅力を多く詰め込んだツアーである。一般的には移動手段はバスを利用することが多い。「ミステリー」という不確実性なワードから旅行者の興味をひき、実際にツアーに参加した人しか味わえない喜びや発見、楽しさなど、旅の充実感を旅行者に与えられることがこのツアーの良さだろう。私たちは龍郷町の珍しい名前が付いた場所や食べ物に目をつけ、それらをコースに盛り込んだ龍郷町での「謎旅」を考えた。都会にはない島ならではの言葉や文化に生で触れることで、一般的なツアーとの差別化も図れ、かつ頭もフルに活用でき、より一層旅の充実感が増すのではないかと考えた。また、ターゲットを大学生にした理由は、「謎旅」を考案した私たち大学生の目線を反させるだけでなく、奄美大島には沖縄にも引けを取らない美しい海や山々など、今後を担う若者にまだまだ知られていない奄美人島や龍郷町、そしてその魅力を知ってもらい、旅行者や移住するような人を増やしたい。

(2) 企画内容

私たちの考えたプランの押しポイントは、「クイズ感覚」「ミッション」「新感覚」「地域密着型」の4つである。1つ日の「クイズ感覚」は、ただ観光スポットを回るだけでなく、奄美人島ならではの言葉を、食べ物をクイズにすることで、その言葉が食べ物なのかスポットなのか、を予想しながら解き回すということである。2つ日の「ミッション」は、1つ日のクイズ感覚と似たようなところはあるが、ミッション系にすることで、このツアーの使い方や売り方によっては、競争しながら龍郷町を満喫でき、スタンプラリーなどにして、旅を完成させていくということに面白みがあると考えた。3つ日は「新感覚」のツアーであることである。現在でもミステリーツアーという名の、ツアープランは多く存在する。しかし、その多くは場所が

秘密になっていたりと、レストランで食べられるメニューが秘密になっていたりと、というところである。しかし、私たちの考えるプランは、奄美大島ならではの言葉をヒントに謎解きをしていくため、今までに無い企画ではないかと思う。新しいことを取り入れることによって、若者や観光客の興味を引き寄せることができるのではないかと考えた。そして、最後の「地域密着型」である。私たちの考えるプランは、「聞いたこともない、想像できない言葉」を柱として考えたため、観光客は普段行かないような場所や、島の人たちもあまり訪れることのないようなスポットも多く含んだ。そのため、その場所の周辺に住んでいる地域の人や商店の方と話す機会があったり、新しい龍郷町を発見できたり、とメジャーな観光コースだけでなく、知る人ぞ知る、といったような観光スポットも巡ることができるということである。

実際に、私たちの考えた1泊2日のスケジュールは表1の通りである。1日目は、どこの班も共通で、15時から始まった。私たちはまず、それいゆふあーむでたんかんのスムージーを堪能してもらい、観光スポットにもなっているハートロックを見てもらう。この2つの場所は歩いて行くこともでき、アクセスも便利である。その次に、「あいかな」という商店で奄美大島のお土産を選んでもらう。ここでは、たんかんジュースも出して頂き、少しの休憩とする。次に、「安木屋場」という、難読の地名を訪れる。ここは、龍郷町でも有数のサンセットが綺麗なスポットである。ここで18時前にサンセットを見てもらう。そして、最後は「番屋」という海鮮を食べられるお店で、まだ汁、という黒色のイカスミ汁を夕食として食べる。以上で1日目は終了である。2日目は、全国チェーン店のコンビニエンスストア、ファミリーマートの中にある、パン屋で朝食を食べてもらう。そして、五穀豊作の神様であり、祭り行事も行われる、平瀬マンカイとショチョガマを訪れる。この近くは、琉球からの文化である、亀甲乱れ積み目の壁があり、そこで写真を撮ることもお勧めする。次は、平家の逃げ場所であったと言われていた今井大権現神社で参拝をする。昼食の時間になり、コストパフォーマンスの良い島とうふ屋を訪れてもらい、奄美大島の伝統飲み物の、ミキを堪能してもらう。そして、奄美大島では多くの人々が利用している大型スーパーのがじゃがじゃを回してもらい、おやつをゲットする。これは、一般的にいうガチャガチャ（硬貨を入れて回し、中にあるおもちゃやお菓子などの景品を獲得するもの）と奄美大島のがじゃがじゃをかけており、200円で1回まわせる。そして、最後、旅の締めには私たちが選んだスポットは、2つの海が見える場所、でモーゼ気分を味わってもらおう。知る人ぞ知る場所で奄美大島の素晴らしい海が2つ見渡せ、旅の締めくくりにはぴったりな場所だと思う。以上、私たちは、「たんかん」「ハートロック」「あいかな」「安木屋場」「まだ汁」「ファミリーマートのパン屋」「平瀬マンカイ、ショチョガマ」「平家の逃げ場所」「ミキ飲み放題」「がじゃがじゃ」「モーゼ気分」をキーワードに謎旅を提案した。

表 3-1 謎旅タイムスケジュール

第1日目		第2日目	
15:00	それいゆふあーむで〇ん〇んのスムージーを堪能!	8:00	ファミリーマートの〇〇屋で朝食!?
16:00	見えたらラッキー! 〇〇〇ロック	9:00	平瀬マンカイ+シャチョガマ=〇〇〇〇 ~奄美の伝統~ 琉球からやってきた亀甲乱れ積みで写真を撮ろう!
17:00	あいかなって、何かな?	10:00	〇〇家の逃げ場所、今井大権現神社
17:45	難読!? 「安木屋場」のサンセット	11:00	コスパよし! 島とうふ屋でまさかの〇〇飲み放題!
18:30	名脇役、まだ汁! 〇〇色の汁!	13:00	奄美の大型スーパーで〇〇〇を回せ!
		14:00	旅の〆に! 知る人ぞ知る絶景スポットで〇〇気分!?

1日目の最初は、たんかんジュースをそれいゆふあーむに飲みに行く(写真3-2中a, b)。

ここでのミステリーポイントは、「たんかん」である。たんかんは、ボンカンとネーブルオレンジの自然交配種とされ、亜熱帯性に適した南国のみかんである。日本にでまわっているたんかんは、鹿児島や沖縄で生産されたもので、全国的には知名度の低い果物(フーズリンク、2017)ということを選んだ。それいゆふあーむは、6年ほど前から農園をはじめ、蜂蜜、農作物、ヤギの酪農を行っている。たんかんジュースが飲めるのは、それいゆふあーむ内の農園カフェである。農園で採れた野菜や卵、ヤギミルクなどを使用したヘルシーフードを提供している。なかでも人気なのは奄美のフルーツに自家製はちみつとハーブをブレンドしたオリジナルのスムージーで、農園直送だからこそ味わえる新鮮で安心なメニューが多くある(それいゆふあーむ、2017)。このカフェの看板には次のミステリースポットであるハートロックの道案内とその日の干潮時間が書かれていた。ハートロックは、東海岸にあるハート型の潮だまりのことで、龍郷町の観光スポットになっている(c, d)。干潮のときにしか、観ることができないためパワースポットとして人気である(龍郷町、2017a)。それいゆふあーむからは徒歩で行くことができる。ここをミステリーのポイントにした理由として、ロックと聞くと、岩場やがけをイメージすると思うが、それがハート型とはなかなか予想することができないと考えたからである。ハートロックまでの道は、しっかりと舗装されているものではなく、雑木林の仲を歩いていくような感じで、そのドキドキ感もスリル満点である。一応、入り口に目印があるため、比較的わかりやすいと思う。ジャングルのような道を歩いていくと、段々と波の音が聞こえてき、そこを通りぬけると広大な海が広がっている。抜けたところから右に進むとごつごつした岩場があり、そこがハートロックといわれるところである。残念ながら、私たちの調査時間が干潮ではなかったため、綺麗なハートロックを見ることはできなかった。続いて、「あいかな」に向かう(e, f)。ここでのミステリーポイントは、もちろん、このあいかな自体である。あいかなとは、店の名称で、龍郷町の素材を使った商品が売られている。龍郷で採れた果物のジャムやゼリー、定番の黒糖豆腐は特に絶品で、他の店と違い、キャラメルが使われており、人気の商品である。まさしく、地産密着型の店で、地元の女性グループのみなさんと経営されている。そのため、龍郷町の話や有名スポット、西郷隆盛の話などもしていただけた。あいかな(愛妻加那)とは、西郷隆盛の妻のことで、店の近くには、西郷隆盛が過ごした西郷南洲居跡があり、奄美大島でも有名な観光スポットの1つである。3年間を奄美大島で過ごし、島妻として支え続けた愛加那は古くから愛され親しまれてきた(あまみつけ、2017a)。そこから、この経営女性グループの名前が名づけられたという。営業時間内であっても店が閉まっているときもあり、島ならではの時間の流れを感じた。そのまま北に進み、「安木屋場」に向かう(g)。この地名の読み方が難しく、私たち自身も最初は読み方に苦戦した。ここでは、この地名の読み方自体をミステリーポイントにし、解説してもらうことにした。ここは、「あんきやば」と読むのであるが、山の斜面に広がるソテツとパショウの群落はほかの集落には見られない独特の風景である。ここは、山と海に面した自然豊かな集落で、漁業が栄えていた。夕方6時に安木屋場に來られるような計画にしたのは、この場所からみるサンセットがとても綺麗だったからである。そして、1日の締めくくりは、番屋という食事処で「まだ汁」を食べる(h)。安木屋場で折り返し、南に向かうと右側に見えてくる「漁師料理 番屋」は、40年以上続く店で、新鮮な魚介類を使った料理が安くで食べられ、観光客にも人気の店だ(あまみつけ、2017b)。私たちが去年に引き続き2回目の訪問でお気に入りの店の1つである。ここでのミステリーポイントは、海鮮丼や定食を頼むと付いてくる「まだ汁」である。真っ黒い汁物で、まさにミステリーな食べ物で、初めて見た人は驚くこと間違いなしだと思う。まだ汁とは、奄美大島の郷土料理で、「まだ」は方言で、「いかすみ」のことである(龍郷町、2017b)。味が想像できないような謎な見た目とは違って、とてもまろやかな味で、だしが効いており絶品である。また、私たちの班は、泊まることでの設定にとっても悩んだが、2年連続で利用させてもらった「ホテル カレック」を提案した(i)。全班共通で、宿代は予算には含めないということだったため、実際に泊まってとても快適であったこのホテルを提案した。

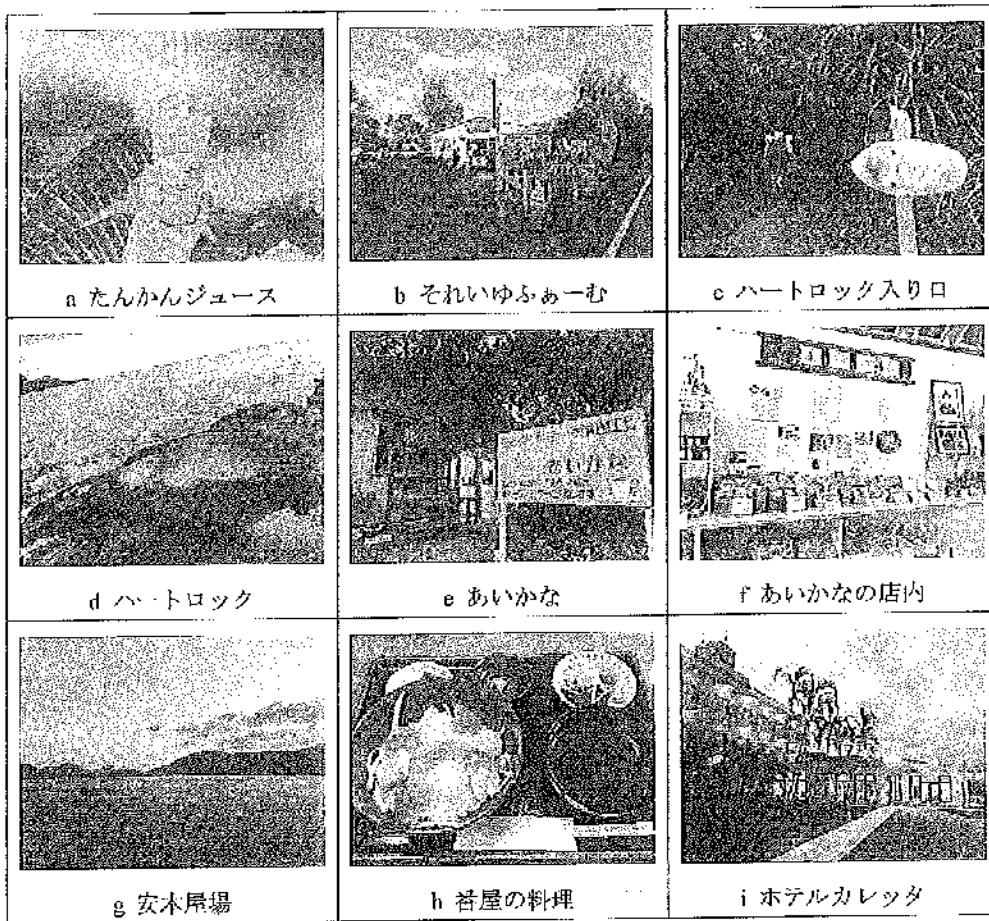


写真 3-2 第 1 日目の謎旅の訪問地の写真(メンバー撮影)

次に、2 日目の日程は、全国チェーン店のコンビニエンスストア「ファミリーマート」の店内に設置されているパン屋で朝食を購入してもらうところから始まる(写真 3-3 中 a、b)。調査中何度も利用したコンビニで、入店したときのメンバーの驚きや、興味津々にパンを眺める姿を見て、ここもミステリーポイントにしようと考えた。ファミリーマートの中にパン屋があることはあまりなじみがなく、島外からの観光客は珍しいと興味を示すのではないだろうか。奄美大島全体をみてもコンビニエンスストアは少なく、貴重な存在になっている。コンビニエンスストアで出来立ての美味しいパンを食べることができるのである。次に、五穀豊穡に感謝し、翌年の豊作を祈願する龍郷町の秋名アラセツ(新節)行事として「ショチョガマ」と「平瀬マンカイ」を行っている場所に向かう。この行事は同指定重要無形民俗文化財にも指定されており、龍郷町の大切な伝統行事の一つである。朝(ショチョガマ)と夕(平瀬マンカイ)との 2 つに分けて行い、ショチョガマは、夜明けと共に片屋根を揺り倒して豊作を祈り、平瀬マンカイは、秋名湾西海岸にある 2 つの岩で豊作を祈る(龍郷町、2017c)。祭事を行わない機関でも訪れることができ、2 つの場所は徒歩で行ける距離でアクセスも良い。ショチョガマは何段もある階段を上っていき、眺めの良い場所にあり、秋名集落が一望できる(c、d)。平瀬マンカイは、湾岸沿いにあり、2 つ岩があることもしっかり確認することができる(e、f)。ショチョガマの祭事場所から北に道なりに進むと琉球から伝えられた亀甲乱れ積みで建てられた壁も見ることができ、その細かい造りに圧倒される(g)。奄美大島の歴史と文化に触れたられたところで、次に進む。奄美大島には神社が少ないが、その中でも龍郷町にある「今井権現神社」に行くことにした(h、i)。ここでのミステリーポイントは、この神社が平家の逃げ場所であったというところである。この神社は、平家の落人であった今井権太夫を祭っており、今井権現への続く石段は、江戸時代の薩摩への航海安全を祈願した船主によって、薩摩の石材を持ち帰り寄与したものとされていて、町指定の文化財に指定されている(じゃらん、2017)。実際に私たちもこの神社を訪れたのであるが、急な石段となかなか今井権現が見えて来ず、調査の中で最も



写真 3-3 第2日目の謎旅の訪問地の写真(メンバー撮影)

体力を使った。しかし、観て、食べて、買って、だけのツアーとは違い、体を動かしながら歴史に触れることで押しポイントの新感覚という点で魅力的であると考えた。ここまでの日程は、午前中のうちに巡ることができる。次は昼食を食べに、南の方に戻り、「島とうふ屋」に向かう(j, k)。ここは去年に引き続き訪れた食

事処で、昔ながらの食堂で奄美大島の島とうふを使ったポリコーム満点の料理が安くで食べられる。豆腐ハンバーグや湯葉春巻き、マーボ豆腐、揚げ出し豆腐などの定食や一品ものなど、とにかくメニューの種類が豊富で日替わりの料理もあり、とてもおいしい。ここでのミステリーポイントは、食事を頼むと無料でいただける「ミキ」の飲み放題を堪能してもらうことである。まさか豆腐屋でミキを飲むことができるのは驚きであり、島外の人にはミキの存在も知らない人が多いと思う。ミキとは、奄美大島で昔から飲まれている発酵飲料で、このお店のミキは米、砂糖、芋で作られており、出来立てはとても甘く日が経つにつれて酸化してくる(島とうふ屋、2017)。他にも湯豆腐も食べ放題で大満足な昼食時間となること間違いないだろう。終了時間も迫ってき、お土産を買いに「ビッグツー」に向かう(l, m)。ここは、奄美大島の住民にとって重要な役割をなしている大型スーパーで食料品や日用品などなんでも揃っている。奄美大島のお土産コーナーも充実しており、観光客も多く訪れる。ここでのミステリーポイントは「あまみやげ」コーナーに設置されている「がじゃがじゃ」を回してもらうところである。がじゃがじゃとは、硬貨をいれてハンドルを回し商品を獲得するガチャガチャと奄美大島の特産品の黒糖豆菓子をかけたもので、言葉だけでは何のことだかわからないと思う。がじゃがじゃは、1回200円で回すことができ、5種類の黒糖豆菓子の中で1つ出てくる。どの菓子も奄美大島で作られており、ひとつひとつの味が違い、何が出てきても嬉しいゲーム感覚で楽しめるものである。1日目に紹介した「あいかな」で作られているキャラ豆もこの中に入っており、お土産にも最適であろう。そしてこのツアーの最後は、2つの海が見える海というスポットである(n, n)。この場所は、Googleマップにもそのままの名称で載っており、ビッグツーから山側に向けて車を走らせると到着する。ここはなんといっても景色が素晴らしく、旅のメにびったりである。ある地点から海を見ると、2つの海が別れているような感じで、海と海の間には、住宅地や緑が広がり、絶景である。ここでは、紀元前13世紀ごろエジプトから脱出しようとし、海を割ったという有名な話がある「モーゼ」の気分になれるというところをミステリーポイントにした。旅の疲れを一気に吹き飛ばしてくれ、龍郷町を一望できる素敵な場所で、時間を忘れてずっと見ていられるそんな場所である。

以上が私たちが考えた謎旅のツアー企画である。5000円以内という予算設定の内訳は次のとおりである。1日目の最初に飲んだそれいゆふあーむのたんかんジュースは1杯500円、あいかなのお土産は500円あれば十分に満足したお菓子が買える。夕食を食べた番屋は、メニューによって値段は違うが、私たちは1000円の海鮮丼を食べたためその設定にした。2日目の朝食は500円でパンと飲み物が買える。昼食の島とうふ屋もメニューによって値段は違うが、私たちは800円の定食を食べたためその設定にした。ビッグツーのがじゃがじゃは1回200円で回せる。お土産は1000円程であろうと考え、以上で約4500円という予算の積み立てをした。

(3) ツアーの効果

私たちが提案した謎旅には観光客目線と龍郷町目線と両方から見て効果があると考えている。まず観光客目線から見ると、「謎旅」と題しているだけあってミステリーツアーとなっているため、ただ楽しむだけ、単純に楽しい！で終わってしまう受け身の楽しい旅ではないのが特徴だ。〇〇となっている答えを合わせいくためにミッション感覚で解明していくことで、知らなかった新しい知識を増やすことができる。他のツアーで直接感じることができない歴史や文化を身につけることで、ただ楽しい思い出として終わるのではなく、知らなかった知識を増やせることで自分自身の関心の幅を広げることによって効果が期待できる。特に若者が対象になるが、体験した人がSNS等で発信していくことによって、口コミ自体が広がり新たな観光客増加の相乗効果を生むことにつながるであろう。

また龍郷町での地元の方の目線で見ると、このツアーの中にはガイドブックにも載っている有名スポットも入っているが、地元の方にとっては大切な歴史的スポットも取り入れていることがこのツアーの魅力とも言える。普段は観光客がなかなか足を運ばないスポットを入れることで、活気のない地域の活性化を図れると考えている。実際に私たちがこのツアーを考える際に、下見で回った際に秋名集落を訪れた時のことである。確かに多くの人で賑わっているといった地域ではないのが正直なところではあるが、空気が澄んでいて綺麗な印象を受けた。平瀬マンカイを目指していた私たちが道に迷っていた時に、私たちのことを珍しがった地元の方が話しかけてくれて、その道を丁寧に教えてくださった。確かに道を教えてくれただけとい

われればそれで終わってしまうかもしれないが、私たちにとっては貴重な旅の思い出の一つである。こういった小さなやり取りであっても旅にとっては忘れられない思い出の一つになることもある。島の方々の温かさも直に感じることもできるのもこの龍郷町の魅力の一つであり、このツアーが最大にもたらすことができると考えている。

以上のことから観光客にとっても地元の方にとってもこのツアーによる両方に対する効果は大きいと考えられる。龍郷町内には食、自然、食、文化など見所が申し分ないくらいに詰まっている。より多くの人に引き付けるために重要なのは、もはやそのものではなく、引き付けるための魅せ方や仕掛けである。その観光スポットの環境や設備などを整えていくことも、もちろん重要ではあるが、それ以上に興味や関心を持ってもらわなければならない。そういった点でも、ミッション感覚で楽しめるこのツアーは、世代を問わず幅広いターゲットを捉えることができる点も他のツアーにはない魅力の一つであるといえよう。

(4) 考察

最後に、この「謎旅」が与える影響を考察する。今回は正の影響と負の影響の二点を、龍郷町と観光客双方の視点から考える。

初めに、正の影響について考察する。この点に関しては前章で述べられているので、この章ではその効果がどのように他に波及していくのかに焦点を当てる。まず、龍郷町においては、町の活気の向上が期待できる。私たちの提案する謎旅では、普段耳にしない言葉やキーワードに焦点を当て、その謎を解明しながら様々な場所を訪れる形式のツアーとなっている。謎は、龍郷町のマップに巡るスポットを印で表した「謎地図」によって、初めて龍郷町を訪れる人でも分かりやすくなっている。地図を活用し町内をめぐることによって、これまでの観光ではあまり訪れなかった地域において地域住民と観光客の新たな交流が生まれ、町全体の交流人口の増加が考えられる。そのような観光地の開拓により雇用の創出や所得の向上といった、龍郷町全体の地域経済の活性化につながるのではないだろうか。また、こうした交流は、観光客を増やすだけでなく、「町本来の雰囲気や暮らしを知ってもらおう」という点からも大切である。人口減少の進む龍郷町において、こうした取り組みを定住人口増加の対策の一つとして位置づけることも重要であると考えられる。

観光客における正の影響は、龍郷町の歴史や文化に深く触れ、新たな知識を身につけることができる点である。ツアープランでは琉球時代から残る石垣や伝統的なお祭りの場所など、この地域独特の場所を実際に訪れることで、ただ歴史を聞くだけでなく、それを五感で感じることができる。1章でも述べたとおり、明確な目的のための旅行が増え、こうした体験型観光の需要が高まっている現代において、観光客にとってもこのツアーは非常に魅力的なものとして映るのではないか。そして、このツアープランの対象者である大学生には、こうして身につけた新たな情報を SNS などで波及させる力がある。総務省のデータによると、20代以下の SNS 利用率では、LINE が 62.8%、Twitter が 52.8%と、他の年代よりも圧倒的に高い割合となっている(図 3-1)。旅行中や旅行後に情報をリアルタイムで発信することで、これまで以上に多くの人が龍郷町を知るきっかけとなりうる。

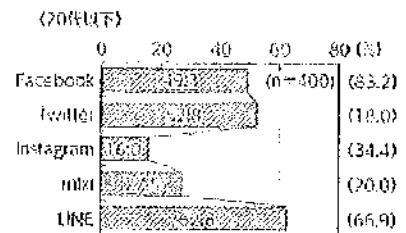


図 3-1 20 代以下の SNS 普及率(出典: 総務省)

次に、謎旅が与える負の影響について考察する。龍郷町側から見ると、観光客、つまり外部の人が増えることで生じる様々な問題が考えられる。前述の通り、謎旅には普段観光客があまり足を運ばない地域を多く訪れる。一点目が、住宅地である。琉球時代から残る石垣は、秋名集落と呼ばれる地域の少し奥まったところにあり、周りにはたくさんの住宅が存在する。今井大権現神社は山の上であり、車で住宅地の中を走らせていかなければたどり着かないうえ、道も複雑で少々分かりにくい。そのような場所に外部の人が多く出入りするようになれば、騒音などにより住民の生活が妨げられ、住民と観光客とのトラブルに発展する恐れがある。二点目が、歴史的な場所である。今回私たちはこの町に伝わる伝統的な祭りを知ってもらいたいとの思いから、平瀬マンカイとショチョガマが行われる場所をツアープランに盛り込んだ。だが、この場所にも多くの人を訪れることになると、古くから人々によって守られてきた自然や建物が荒らされる可能

性もある。2017年6月にも、大阪の四天王寺で観光客による落書きが見つかった。こうした観光客によるいたずらは、日本各地で度々問題となっており、観光客が増加すれば龍郷町でも発生する可能性が高いと考えられる。

また、観光地化されることで大きな問題となるものの一つにごみ問題がある。2013年に世界遺産に登録された富士山では、ごみのポイ捨てが深刻であったために長年世界遺産に登録されなかった。謎旅では、今回巡るスポットをマップに表示した「謎地図」を作成しており、観光客にはそれをもとに町を観光してもらう。そのため、この紙が町内にポイ捨てされたり、ゴミの量を増やす原因となる恐れがある。

奄美大島DMOの方のお話によれば、現時点で住民と観光客のこうしたトラブルは確認されていないという。しかし、今後謎旅のような体験型観光が増えてくると、こういった問題が起こる確率も高くなる。そのため、自治体と住民が話し合い、ゴミ問題や観光客が住宅地に立ち入る際の、きちんとしたルールを事前に設けておく必要があると推測される。

最後に、観光客側からの謎旅の負の影響を考察する。まず、距離の問題である。東京から龍郷町に来ると仮定した場合、約1500kmの距離あり、簡単には行きづらい。しかし、時間と金銭面に関しては、1日で龍郷町をめぐることができ、飛行機・ホテル代とレンタカー代を除いて5000円以内で楽しむことができるツアーとなっている。飛行機代もLCCを使えば直行便で1万円以内に収めることができ、大学生でも十分利用可能であると考えられる。

また、これは全車に共通することであるが、今回の企画は車での移動が前提である。龍郷町にはバスも通っているが本数も少なく、一つ一つの観光スポットが離れているため、車の方が効率よく回ることができる。しかし、謎旅では対象者が大学生のため、免許を持っていない大学生はこのツアープランを利用することができない。国土交通省によると、10代、20代の若者の免許取得率は年々減少しており、特に東京都における20代の取得率は、2011年で63.5%であった。このことから、大学生の約4割はツアーの対象から外れてしまうことになる。そのため、この4割をどのようにして取り入れるかも今後の課題であると言える。

参考文献

- ・これぞ若者は旅に出る 国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/common/000219295.pdf> (2017年12月9日参照)
- ・たんかん旬の食材百科 フーズリンク <http://foodslink.jp/syokuzaihyakka/syun/fruit/Tankan.htm> (2017年12月10日参照)
- ・ヘルシーアイランドカフェーそれいゆふあーず <http://soleilsmile.com/> (2017年12月10日参照)
- ・ハートロックー龍郷町 a http://www.town.tatsugo.lg.jp/kankou_bunka/sizen_siseki_meisyo/hcart-stone.html (2017年12月10日参照)
- ・一味違う！地元龍郷町の素材を使った手作り特産品が大人気「あいかな」ーあまみっけ a <http://amamikke.com/5668/> (2017年12月10日参照)
- ・トロッと濃厚な味わい。磯の香りが口いっぱいに広がる「漁師料理 番屋 (ばんや)」ーあまみっけ b <http://amamikke.com/2268> (2017年12月10日参照)
- ・まだ汁ー龍郷町 b http://www.town.tatsugo.lg.jp/school_portal/toguchi/toguchi_docs/2017012700031/index.html (2017年12月10日参照)
- ・秋名アラセツ行事ー龍郷町 c http://www.town.tatsugo.lg.jp/kankou_bunka/gyouzi/akinaarasettsu.html (2017年12月10日参照)
- ・今井権現ーじゃらん https://www.jalan.net/kankou/spt_46527ag2130014389/ (2017年12月10日参照)
- ・烏とうふ屋 奄美大島豆腐料理専門店 <http://shimatoufuya.jp/> (2017年12月10日参照)
- ・SNSの利用率 - 総務省、閲覧日 2017/12/13 <http://www.souma.go.jp/johotsusintokci/whitepaper/ja/h27/html/nc242220.html>
- ・四天王寺の仁工門など落書き被害 器物損壊容疑で捜査 - 朝日新聞、閲覧日 2017/12/13 <http://www.asahi.com/articles/ASK673GM8K67PT11.006.html>
- ・自動車利用の動向 - 国土交通省、閲覧日 2017/12/13 <http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/html/n1232000.html>

謎杯

龍郷町

想像を絶する!
龍郷町探検
¥5000以内

1日目

- 15:00 龍郷町736に集合!
- 16:00 On On の2人3人で競争!
- 17:00 竜崎の海で何かが?
- 17:45 龍崎に海牛を捕まえて!
- 18:00 龍崎海岸に100円を!

2日目

- 7:30 中の100円を朝食に!
- 9:00 平瀬の川に100円を!
- 10:00 龍崎の海で何かが?
- 11:00 龍崎の海で何かが?
- 13:00 龍崎の海で何かが?
- 14:00 龍崎の海で何かが?

龍郷町の探検は、想像を絶する! 龍郷町の探検は、想像を絶する!

177の魅力

177代金内訳

- 入会費 ¥500
- 1日目 ¥1000
- 2日目 ¥500
- 2日目 ¥800
- お土産 ¥1700 (18日迄有効)

77500

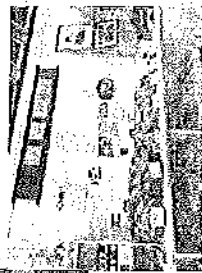
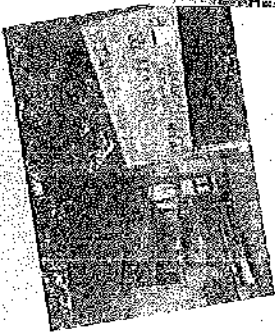
謎地図



チーム名	JELLY JELLY	
メンバー	丸山萌香	齊野半陽菜
	富田真帆	網中美里
タイトル	謎旅 in 龍郷町	
テーマ	食×ミステリー	
想定するターゲット	大学生	
概要、特徴	<p>通過しがちな龍郷町をミッション感覚で楽しめるコースです。聞いただけでは想像もできない食べ物やスポットを回りながら、龍郷町の歴史と伝統を体感できる新感覚ツアーです！</p>	
基本事項	日程	1泊2日
	宿泊地	ホテルカレッタ
	金額	4500円
日程	<p>◀1日目</p> <p>15:00 それいゆファームで〇ん〇んのスムージーを堪能！</p> <p>16:00 見えたらラッキー！〇〇ロック</p> <p>17:00 あいかなって、何かな？</p> <p>17:45 難読！？“安木屋場”のサンセット</p> <p>18:30 名脇役、まだ汁！〇〇色の汁！</p> <p>◀2日目</p> <p>ファミマの〇〇屋で朝食！？</p> <p>9:00 平瀬マンカイ+ショチョガマ=〇〇〇〇</p> <p>琉球からやってきた亀甲乱れ積みで写真を撮ろう！</p> <p>10:00 〇〇家の逃げ場所</p> <p>11:00 コスパよし！島とうふ屋でまさかの〇〇飲み放題！</p> <p>13:00 奄美の大型スーパーで〇〇を回せ！</p> <p>14:00</p> <p>旅のメロ！</p> <p>知る人ぞ知る絶景スポットで〇〇〇気分！</p>	

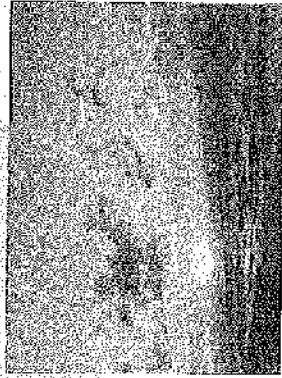
あいかな

あいかなって、何かな？



安木屋場

雑誌!? 安木屋場のサンセット



番屋

名脇役、まだ汁！黒色の汁！



2日目

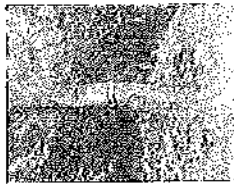
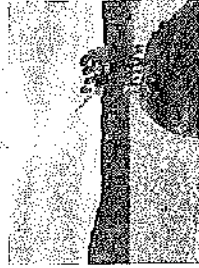
ファミリーマート



全国チェーンのコンビニで
まさかのパン屋さん発見！

秋名

平瀬マンカイ+シヨチヨガマ=五穀豊穡

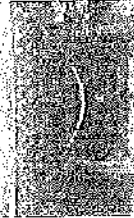


秋名

琉球からやってきた
亀甲乱れ積みで写真撮ろう！



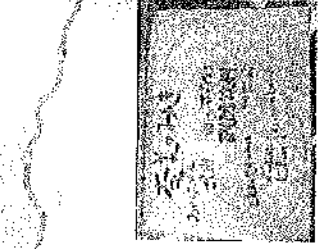
今井権現神社



平家の逃げ場所でひと汗かこう！

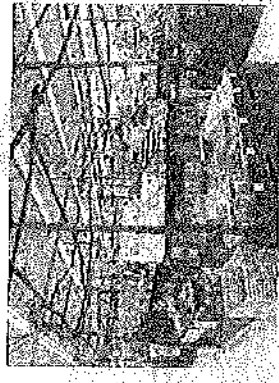
島とうふ屋

コスパよし！島とうふ屋で
まさかのミキ飲み放題！



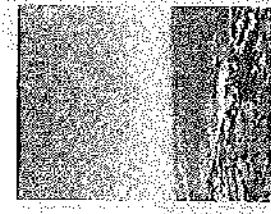
ビッグII

奄美大島の大型スーパーでがじゃがじゃを回せ！

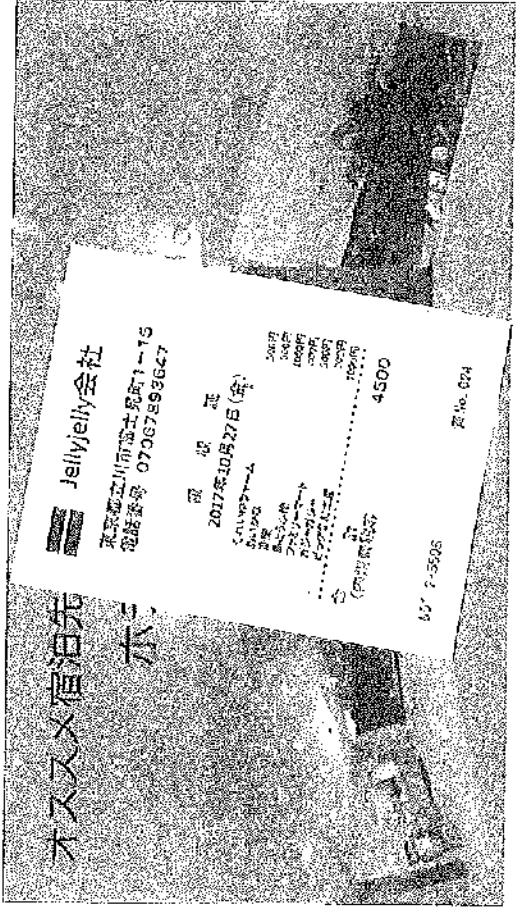


戸口

旅のメに！知るひととぞ知る絶景
スポットでモーゼ気分！



オスス×宿泊先
ホ



3.2 女子旅(湊優希、荻野弥結、山本詩織、吉満幸保)

(1) はじめに

近年、旅行会社や航空会社では“女子旅”特集がよく取り上げられている。ANA が 20～39 歳の有職者女性 500 名に対して、「旅行」に関する意識調査を実施した結果、女子会(女性だけの飲み会・食事会)が好きかという質問に対し 94% が好きと回答した。また、女子会が盛り上がり、予定していた時間では足りないと感じたことがある人がほとんどの女性である 88% があると回答しており、84% の女性が女子旅(女性だけの旅行)に行ったことがあると回答し、女子旅に行きたい理由として、「気楽だから」が 63% で 1 位に、以下、2 位「話があうから」(58%)、3 位「誘いやすいから」(28%) という調査結果を発表している。つまり、女子会の延長線上として女子旅をする女性が増加していることがわかる。

また、2016 年 4 月時点での 18～34 歳の Instagram を利用している女性は 409 万人にのぼり、Instagram の調査によると、旅行に関心を示す利用者を対象にアンケート調査を実施したところ、旅先を考えたり、週末の過ごし方を考える際に、67% のユーザーが Instagram を参考にしているという調査結果が発表されており、Instagram と観光の関係はとて深くなってきている。

そこで私たちのグループではターゲットを(1)10～30 代の女性、(2)写真が好きな人、(3)ドライブが好きな人、(4)自然が好きな人、(5)女子旅がしたい人に絞った。また、インスタ映えするような写真を撮ることを目的とし、これらの層をターゲットとすることで、旅行客として訪れた人たちが Instagram に投稿し不特定多数、または特定多数のユーザーに発信することで、新たな旅行客を獲得できることが見込まれ、奄美大島や龍郷町の魅力をより多くの人に知ってもらう機会が増えることが期待できる。

(2) 企画内容

テーマが「女子旅」ということで、若い女性(10 代～30 代)に受けるツアープランを考える必要があった。そこで考えた手段として、現在ターゲット層の間で大流行し、利用者が国内日本女性(同年代間)だけで 400 万人を超えている、“instagram”を使うことが私達のグループの特徴である。いかに“インスタ映え(見栄えがよかったり映えたりするもの)”する写真を撮るかがこのツアーの鍵になってくるため、そのような写真を撮るためには、撮影対象物が(1)色彩が鮮やかであること(2)非日常なものであること(3)おしゃれで雑誌などに載っていそうなもの、以上 3 点を抑える必要がある。これらのポイントを把握した上で、ツアーで立ち寄る場所を決定し、プランに組み込んだ。また、下調べしたもの以外に道中で見つけたものも含まれている。そして何よりも、この企画自体の大きなテーマが龍郷町の魅力を発信することであったため、現地の文化を目で見るだけでなく、泥染など実際に体験できるプラン等も組み込んである。そうすることで、五感に訴えるツアーに仕上がっている。

その上で私達が提案するツアープランは表 3-2 の通りである。以下からは表 3-2 を参考にツアーの詳細を説明していく。

表 3-2 ツアープラン

1 日目		2 日目	
15:30～	フォトドライブ	10:00～	泥染め・藍染め体験
17:00～	カラフルな教会で写真撮影	11:45～	お土産購入
17:15～	息をのむサンセット	12:30～	昼食(鶏飯)
18:30～	夕食(猪肉で BBQ)+宿泊		

【1日目】

(1) フォトドライブ(15:30~)

このプランでは、インスタ映えするスポットを車で巡るといった内容になっている。なので、まず空港に到着したら、レンタカーを借り、その足で写真撮影スポットを巡るドライブに出かける。車という小回りが利く交通手段をふんだんに生かした内容となっている。巡るスポットや順路に関しては図1のよりみちマップと表2を参考にしてほしい。よりみちマップには合計8箇所のインスタ映えスポットが掲載されている。あえて抽象的なマップにしたことには理由がある。1つは、車や地図に苦手意識を覚える女性でも受け入れやすい形にしたこと。もう一つは可愛らしさを追求したためである。地図にとって正確さも必要な要素ではあるが、現代において、経路に関しては車のナビに頼ることが多いと推測したため見栄えを優先した結果、この形式にたどり着いた。表2に掲載している訪れるスポットについて、前述で示したインスタ映え写真を撮るポイントと共に順番に説明していく。

写真 3-4 よりみちスポット

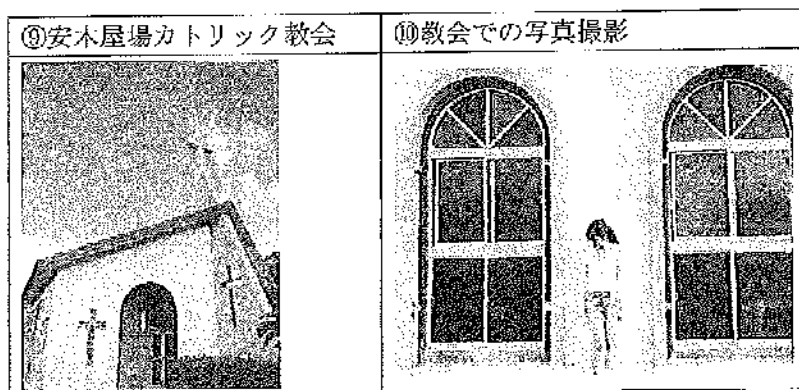
<p>①キッチンカー(1)(3)</p> 	<p>②ハワイ風看板(1)(2)</p> 	<p>③La Fonte(1)(3)</p> 	<p>④Big tree(2)</p> 
<p>⑤ハイビスカス(1)</p> 	<p>⑥友情の鐘(1)(2)(3)</p> 	<p>⑦見晴らしの丘(2)</p> 	<p>⑧今井権化神社(2)</p> 

見て分かるようにどれも色鮮やかで、目を引く写真ばかりである。前述で示したインスタ映えするポイントをしっかり押さえていることが見て分かる。まず①のキッチンカーは、ある民宿の前に置かれているもので、民宿の主人の方自ら制作したものだそう。荷台部分が本で作られ、暖色で塗られたキッチンカーは温かみがあり、撮影すると雑誌に載っているような写真を撮ることができる。②のハワイ風看板は約2mある車のナンバーをモチーフにした看板で、どこか遠い南の国を連想させるようなたたずまいである。③の La Fonte はジェラートで有名なお店で、常時10種類の現地の食材で作られたジェラートが用意されている。外装も白を基調とした清潔感溢れる様相で、購入したジェラートと外観を一緒に撮ると、雑誌に載っているようなおしゃれな写真を撮ることができる。④の Big tree はその名の通り、ガジュマルの大きな木のことである。民家の横にある道路沿いに、道を覆うようにそびえ立っている。大木の一部分にくぼみがあり、そこに入って写真を撮ると、幻想的な一枚になる。自然の偉大さを肌で感じる場所である。⑤のハイビスカスは奄美大島のいたるところで咲いているのだが、ここは道路に沿って一面にハイビスカスが咲いており、運転しながらでも、立ち止まってでも楽しめるスポットである。⑥の友情の鐘というのは、入り江にある棧

橋のことで、その先端に大きな鐘が設置されている。海と空の青色と、棧橋の白のコントラストが美しく、皆で鐘を鳴らして写真を撮ることをお勧めする。⑦の見晴らしの丘は、⑨の今井権化神社に向かう道中にある。山道を登っていくと、急に道が開け、ちょっとした広場が現れる。そこにはオーシャンビューが広がっており、絶景を楽しむことができる。そして⑦に付随して今井権化神社は、境内にたどり着くために約 150 段の階段を上る必要がある。その階段が写真スポットで、ジブリアニメの舞台になりそうな風景を楽しむことができる。都会の喧騒から離れて、森林浴を楽しむ人は訪れるべき場所である。

(2)カラフルな教会で写真撮影(17:00～)

フォトスポット巡りが終わり、次の目的地が安木屋場(あんきやば)になる。安木屋場は東シナ海に面した人口わずか 170 人ほどの集落。⑨⑩ここではオレンジ、黄色、青、ピンク、白で塗装された珍しい教会を見ることができる。教会にしてはとてもポップな色合いで、可愛いもの好きな女子達にはたまらないはずである。この教会をバックに写真を撮ると、写真全体が明るくなり、目指しているインスタ映えになる。この教会は中を自由に見学することができる。入って正面にはキリスト像が置かれ、とても静かな時間が流れており、心を安らかにすることができる。



(3)息をのむサンセット(17:15～)

教会で心を静めた後は、さらに心を洗うため絶景を堪能しに行く。⑪同じ安木屋場内で、美しい夕日を見ることができるスポットがある。夕日は基本的に美しいものであるが、ここで見る夕日は一味違う。周りに遮るものが何もないため、水平線に沈んでいく夕日の全体像を見ることができるということと、海に光が反射してキラキラと光り、より美しく感じられる。

⑫夕日をバックに写真を撮ると、逆光になって陰になってしまうが、それはそれで味が出て、まるで絵画のような写真を撮ることができる。



(4)夕食+宿泊(18:30～)

心を空っぽにした後は、お腹を満たしに行く。夕食は宿泊地で取るのだが、その宿泊地に民泊を利用する。

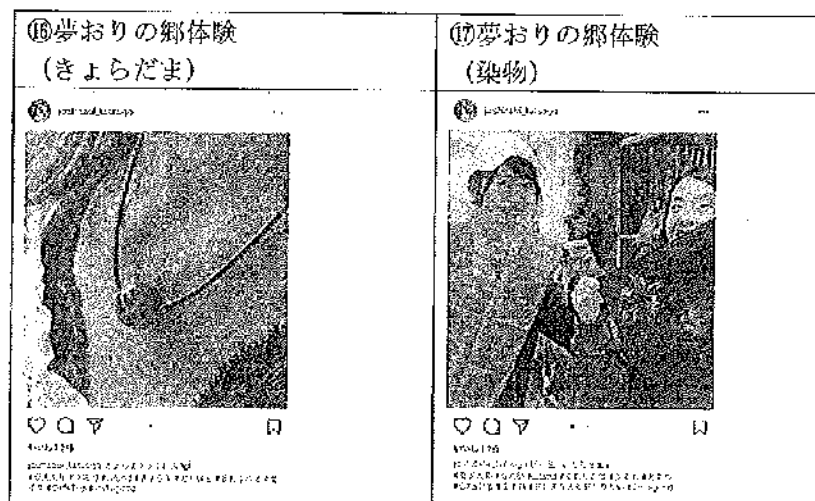
民泊とは住宅を活用して宿泊サービスを提供するもので、現在急速に普及しているサービスだ(観光庁ウェブ
サイトより)。ここで紹介する民泊先は現在許可申請中であるため、実現後を想定して提案する。今回紹介す
るのは武野さんのお宅だ。このお宅では、庭でウサギを30羽放し飼いしている。そのため宿泊すれば、⑩
ウサギと触れ合い放題・写真も撮り放題なので、ウサギ好きにはたまらない宿泊地である。そして民泊の所
有者である武野さんは、仕事の傍ら、猟師として猪を狩っている。そこで、⑪夕食では武野さん自らが捕獲
した猪の肉でバーベキューをする。猪の肉は独特の臭みがあると言われているが、奄美の猪は全く臭みがな
い。それでいて脂身が少なくさっぱりとしているため、女性でも気兼ねなく食べることができる。こんな雰
囲らしい宿泊先だと料金が気になるが、食事代込でなんと2000円と破格の値段になっている。実施前段階で
の値段であるため変動の余地は大いにあるが、実現すればこんなコストパフォーマンスのよい宿泊先は他に
ないと思う。ここには、若い人たちに館郷町に来てもらって、魅力をたくさん知ってほしいという⑫武野
さんの願いが込められている。ここで1日目は終了となる。



【2日目】

(1)夢おりの郷

2日目は、宿泊場所のすぐ近くにある「夢おりの郷」から始まる。ここでは、大島紬や染物、きよらだま
(とんぼ玉)づくり、きよら砂を使った手作り品などの体験が可能な場所である。大島紬は1300年の伝統を
誇る日本屈指の伝統工芸品であり、絹織物の女王とも言われる高級絹織物である。この夢おりの郷では、こ
うした奄美の伝統に触れることができる他、泥染めという特殊な染物体験、きよらだまでのアクセサリ一作
りなど、思い出の品を自分たちの手で作る、持ち帰ることができるようになっている。こうした思い出作り
は、女子旅には欠かせない要素であり、カラフルなアクセサリや美しい大島紬などは、写真映えすること
間違いなしであろう。



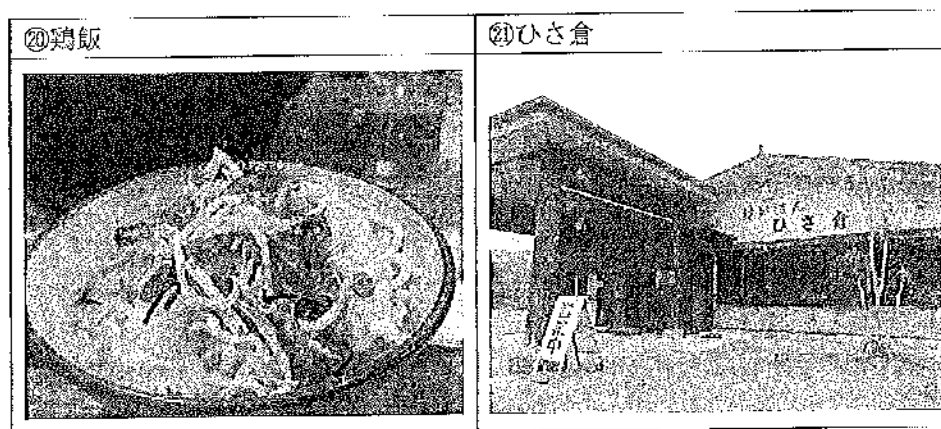
(2) Frasco

次の目的地はオシャレなお土産が並ぶ「Frasco」である。ここでは、大島紬で作られた雑貨や、可愛いアクセサリーも販売されている。また、商品だけでなく、店内外の雰囲気もお洒落に作られている。



(3) ひさ倉

ツアーの締めくくりは、奄美の郷土料理「鶏飯」。鶏飯とは、白米に鶏肉やショウガ、ネギ、刻みのり、卵などをトッピングし、さらに鶏ガラでだしを取ったスープをかけて食べる料理である。日本各地にある「とりめし」が炊き込みご飯に近いのに対して、「鶏飯」はお茶漬けに近い。このプランでは、ひさ倉という地元でも人気の鶏飯の専門店では昼食を食べる。鶏飯は、その名の通りとりのうま味がしっかり味わえる一品であり、鶏肉に鶏ガラスープをかけて頂くという斬新さが、私たち旅行者の舌を刺激する。一度食べてしまうと病みつきになる美味しさであると言える。以上の行程でこのプランは終了となる。



(3) ツアーの効果

私たちの提案したモデルツアーの特徴や強みからその効果をまとめる。このモデルツアーの強みは大きく分けて、コストパフォーマンスが高い点、民泊をする点、流行を押さえている点、新しい観光資源の発見ができる点、そして観光サイクルの創出が行える点の5つが挙げられる。まず、1つ目の、コストパフォーマンスが高いというのは、このツアー最大の強みと言える。宿泊費込みで5,000円(概算)であることを指している。コストを抑えられている要因は、ホテルなどに宿泊するのではなく、宿泊費が比較的安価な民泊を利用することや、主な活動が写真を撮ること、その分費用がかからないことなどが挙げられる。ツアーの費用が安いことで学生を含めた若者にもマストし、幅広い層に興味を持ってもらえることができ、より多くの集客が期待できる。2つ目の、民泊をすることで期待できる効果は、観光客と地域住民との接点の増加である。民泊の特徴は、宿泊施設が地元住民の暮らす住宅街のなかに位置することや、利用する際に直接

家主と連絡をとることだ。家主との交流から始まり近所の方々とも触れ合える機会もうまれやすいと考えられる。現地の方との交流を通して、その土地の文化をより近い場所で体感することで観光客の思い出に強く残り、またそこで人間関係を構築することで、その地にまた訪れたいという意欲につながることも期待できる。観光客の満足度を上げるだけでなく、同時に地域住民側の考える観光客の満足度も上げることができ、観光としての価値により自信を持つことができると考えられる。3つ目の、流行を押さえていることで期待できる効果は、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）に投稿するための映える写真を撮ることを求めて行動するという現代の若者のニーズと合致しており、ターゲットの旅行意欲をかきたてることのできることだ。SNS に投稿することで見込まれる波及的な効果は5つ目の観光行動サイクルのところで述べる。4つ目の、新しい観光資源の発見で期待できる効果は、観光客自らが探索し、フォトスポットを発見することで観光地側が気づけなかった新たな観光資源を創出することだ。受け身ではなく能動的に行動することでより充実した観光が行えるのに加え、王道のフォトスポットではなくあえて、まだ発見されていなかったり知名度が低かったりしてインターネット上に載っていないようなフォトスポットでの写真を投稿し、流行の先駆的な旅を提案することができる。5つ目の、観光行動サイクルの創出により期待できる効果は、龍郷町に持続的に多くの観光客が訪れるような仕組みができることである。まず、観光サイクルについて説明する。旅行者が観光中に撮った写真を SNS などに投稿し、それを閲覧した人が自分もその写真を撮りたい、またはその景色を眺めたいと思い、その願望が旅行の動機となって旅行し、また撮った写真を投稿し、他の閲覧者の旅行に繋げるという仕組みのことである。この仕組みが成立すれば、持続的で波及性のある観光客の創出が見込められる。観光サイクルを図式化したのが以下のものである。(図 3-2) 加えて、新たな魅力発見の機会が増すことも効果の1つである。このモデルツアーに参加し観光することで、「映える写真」に加え、「新しいもの」という条件が興味・関心をかきたて、そして、「自分だけの素敵な写真を撮りたい!」という更なる旅行意欲が生まれ、それが観光行動の元になり、実際の行動に繋がることで新たなフォトスポットが発見されていくと考えられる。

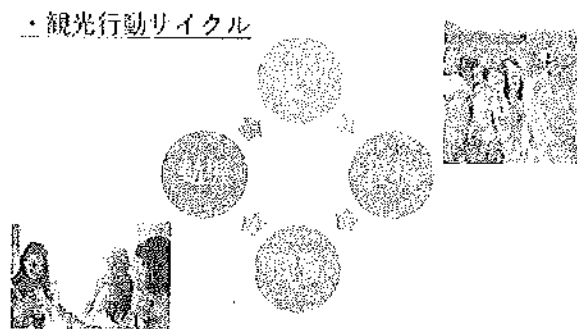


図 3-2 観光行動サイクルの構造

(4) 考察

このモデルツアーを実施した場合に考えられる龍郷町及び観光客に及ぼす影響を考察する。以下、正の影響を3点、負の影響を1点述べる。

まず、1つ目の正の影響は、新たな観光資源の発見による龍郷町全範囲の観光地化である。観光サイクルの中で旅行者が発見した新たなフォトスポットが SNS 上で公開されることで知名度が上がり、そしてそこへ訪れたい観光客が増加し、観光地としての機能を持つようになることで、今まで注目されていなかった場所にも観光地としての付加価値をつけることができると考えられる。2つ目の正の影響は、持続的な集客による観光地としての安定化である。SNS による不特定多数の人々との情報供給により、次から次へと旅行者を誘発することができると考えられる。また、民泊やよりみち旅を通しての地域住民との交流によりうまれる人と人との良好な関係がもととなり、再び龍郷町に旅行で訪れるということも期待できる。観光地としての安定化により、一定の観光収入が見込まれ、それをもとに、現在課題とされている道路補正や宿泊施設の不足などの観光地としての準備が追い付いていない状況を改善することができると考えられる。3つ目の正の影響は、地元の観光地としての魅力に地域住民が気づくことで地域住民自らが外部に PR できるような環境に近づくことである。2016年のJTBパワーインデックスの調査による観光客満足度と住民が考える観光客満足度の比較(図 3-3)を見てみると、多くの観光地において住民の評価が観光客の評価を上回っているのに対し、奄美大島では逆の意識が動いている。訪れた観光客の約75%が満足しているのに対し、住民側は14%も下回る約61%であった。この一番の原因が地域住民と観光客との接点が少ないことであると考え

られる。よって、民泊やよりみち旅による接点の増加が、改善に効果的といえる。また、前述したように、龍郷町全範囲の観光地化が実現することで、以前は観光においての影響を全く受けていなかった住民まで巻き込んだ観光への取り組みができることで観光に携わる団体と住民とが一体化した理想的な構造に近づくことができるだろう。

最後に、負の影響を挙げる。考えられるものは、地域住民と観光客とのトラブルの誘発である。特に、このモデルツアーのよりみち旅での龍郷町内全体を対象とした写真撮影巡りは、住民のプライバシーの侵害にもなりうる場合があるので十分に対策をとらなければならない。観光地化により住民のプライバシーが侵害された事例がある。1995年にユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録された岐阜県の白川郷・五箇山の合掌造り集落では、登録当初、観光客が個人の敷地や田畑に入ったり、民家に勝手に上がりこんだり、家の中を覗いたり、無断で戸を開けたりするなどの問題行為が多発していたよ

うだ。現在では、白川村役場のホームページに観光の際のお願いとして、いくつかの禁止事項や注意事項を記載するなど観光客に問題行為であることを認知させ、改善された。これを参考に、このモデルツアーを実施するにあたって、参加者に事前にいくつかの規則や注意事項を伝え、それに沿って観光を楽しんでもらうという対策を提案する。きちんとしたルール作りが重要であり、例えば、民家や私有地に無断で立ち入らない、私有地内の写真を撮る場合は、「写真を撮らせていただいてもいいですか」と一言断りをいれてから撮影する、などが挙げられる。こうすることで、自然と住民とのコミュニケーションも図ることができ、観光客と地域住民双方の満足度を上げることができると考える。

2011年から現在にかけて奄美大島の入込客数は増加し続けており、今後予定されている格安航空会社であるパンアメリカの奄美・関西空港間の就航や世界自然遺産への登録などにより、この傾向は加速すると見込まれる。この絶好の機会に、龍郷町の魅力をこのモデルツアーを通して発信し、名瀬市に流れてしまう観光客を誘致することで、龍郷町の観光振興に貢献できると考える。持続的な観光にはバランスが不可欠である。これまでの、観光に携わる団体や観光の恩恵を受ける店や施設と観光客との間だけの観光から、地域住民を巻き込んだ地域全体の観光へと変え、三方の意見を尊重した観光への取り組みができる仕組みをつくるのが今後の課題であるといえる。

参考文献

<http://www.ama.co.jp/pr/11-0103/pdf/11-041.pdf>

https://compass-media.tokyo/interviewlist/instagram_unknownjapan/

・国土交通省観光庁「住宅宿泊事業法案を閣議決定」

http://www.mlit.go.jp/kankocho/news06_000318.html (最終閲覧12月15日)

・奄美大島 DMO 資料

・鹿児島県観光統計 奄美群島への入込・入域客数

<https://www.pref.kagoshima.jp/aq01/chiiki/oshima/chiiki/zeniki/oshirase/kankoutoukoi.html>

・白川村役場ホームページ 白川郷観光情報

<http://shirakawa-go.org/kankou/onegai/>

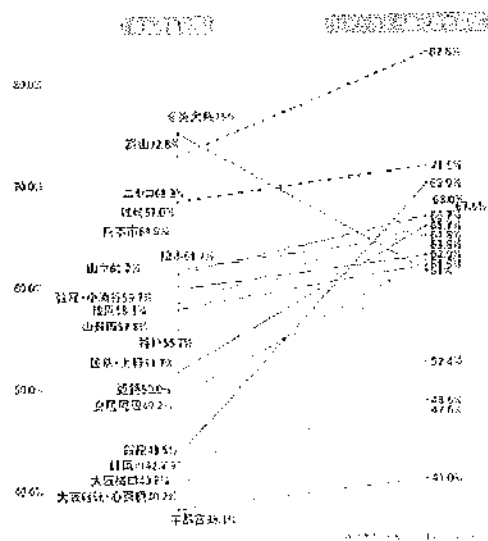


図 3-3 観光客満足度と住民が考える観光客満足度の比較(出典:奄美大島 DMO 資料)

よみみち DRIVE MAP

① Tatsugo → Photo Spot & Activity

---→ 1日目ルート
 ---→ 2日目ルート

宿 武野さん宅



古小屋

ハピネススポット



Frasco

Amami souvenir Shop

1日スポット

安木屋場教会

今井神社

見晴の丘



友情の鐘

mini 浜辺

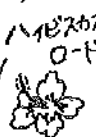


ひや倉

Finish!!

空港

行止利



Big Tree



Start!!
1日目

Gelato & Caffe La Forte



FMラジオ看板



薄お川の郷



Let's Go!!

Girls Trip

in Amami
Tatsugo

* 運転の際は、交通ルールを守りましょう。
 * 安全運転を心がけましょう。

チーム名	女子旅企画委員会	
メンバー	荻野弥結	湊優希
	山本詩織	吉満幸保
タイトル	カメラを片手に裏道ドライブ	
テーマ	よりみちドライブ+Photo	
想定するターゲット	10代~30代女性	
概要、特徴	<p>【概要】 Instagram に映える様な写真を撮りながら、龍郷町の風土・文化・人柄に触れる。</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊地が民泊 ● ドライブコースに旧道を組み込んでいる ● コストパフォーマンスに長けている(宿泊費込で5000円以内) ● モノ消費<コト消費 <p>Instagram を通して多くの人に龍郷町を知ってもらう機会になる。</p>	
基本事項	日程	10/25~26
	宿泊地	民泊(武野さん宅) 〒894-3011-1030 鹿児島県大島郡龍郷町大勝 2195
	予算	5000円

日程

一日目

15:00 奄美空港出発

↓

15:30

~17:00 隠れフォトジェニックドライブ

↓

17:15 安木屋場…教会&夕日

↓

18:30 宿着…夕食(猪肉)、就寝

二日目

10:00 出発

↓

10:10 夢おりの郷…藍染め・泥染め体験

~11:30

↓

11:45 Frasco…お土産調達

~12:15

↓

12:30 ひさ倉…鶏飯を食す

~13:30

↓

14:00 奄美空港着



#目次

1. テーマ、目的
2. Instagramとは
3. ターゲット
4. ツアープラン
5. 立ち寄りスポット紹介
6. 予算
7. まとめ

1. テーマ

+ Photo

龍のまち Instagram

目的

Instagramに載せる観光写真を送りながら、

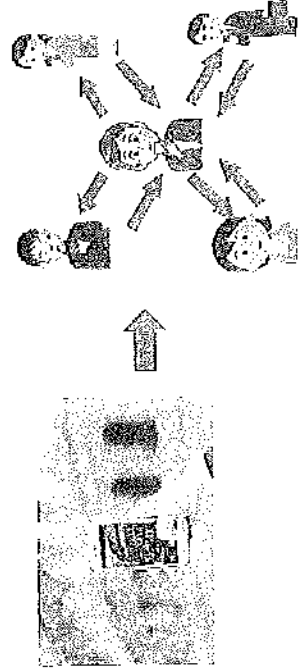
龍郷町の風土、文化、人柄に触れること。



Instagram

2. Instagramとは

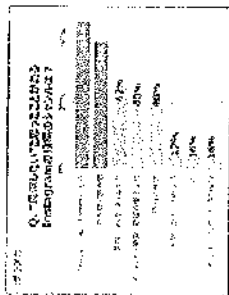
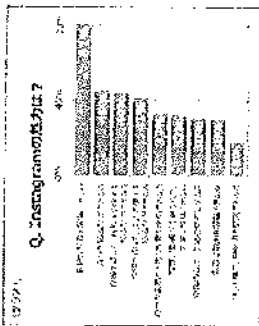
自らが撮影した写真や動画をネット上にアップすることで、不特定多数、または特定多数の人々に共有できるアプリのこと。



2-2. Instagramを使う理由

- Instagramの使用頻度…ほぼ毎日(約60%)
- Instagramの魅力…「素敵な写真が見れる」(81%)

Instagram魅力的な投稿→「真似したい」



出典：トレンドバース株式会社

表1 Instagramの年齢別ユーザー数(百万)

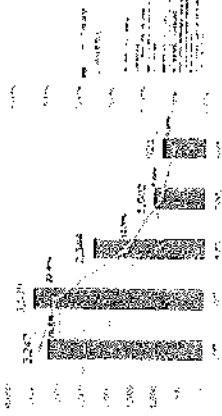


表2 性別別利用状況(2016年4月時点) 18歳～34歳

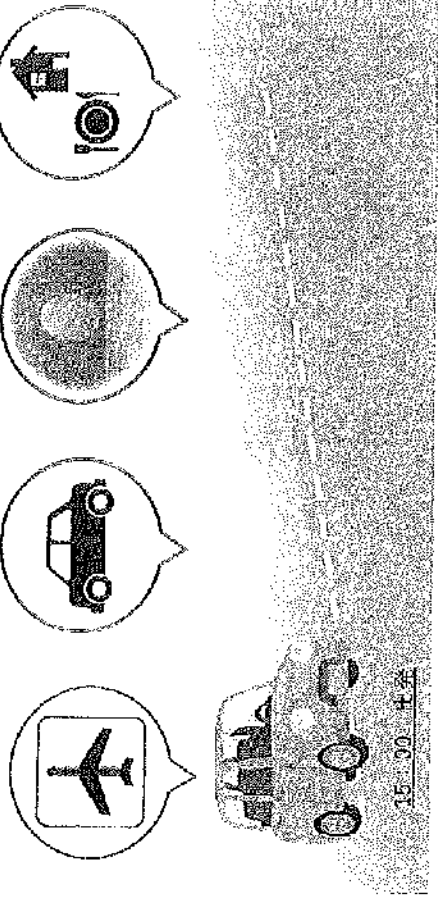
性別	ユーザー数
女性	409万人
男性	149万人

出典：ニelsen株式会社

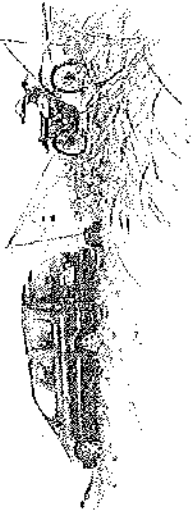
3. ターゲット

- ✓10代～30代の女性
- ✓写真好きな人
- ✓ドライブが好きの人
- ✓自然が好きの人
- ✓女子旅したい人

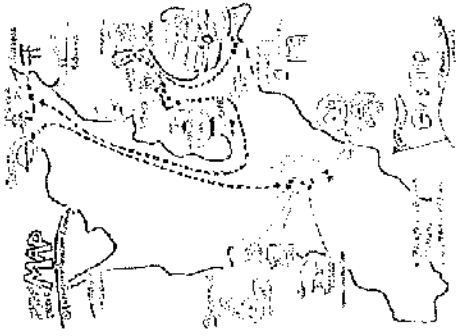
【1日目】



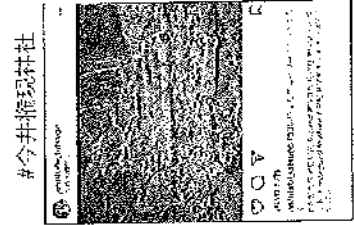
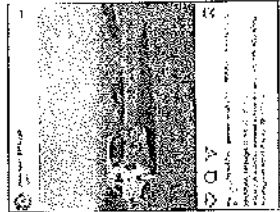
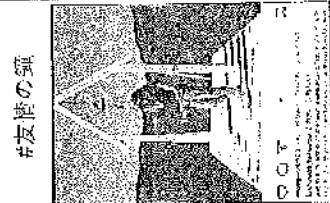
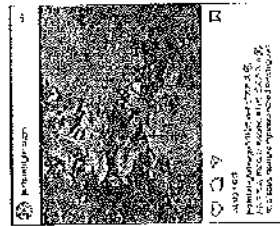
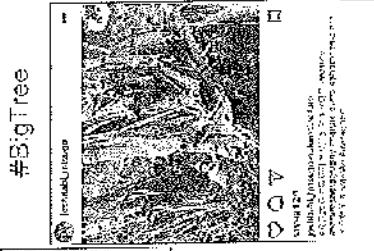
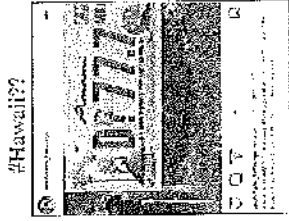
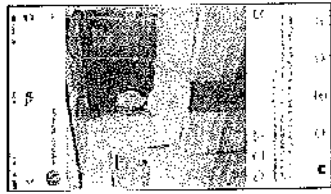
4. ツアープラン



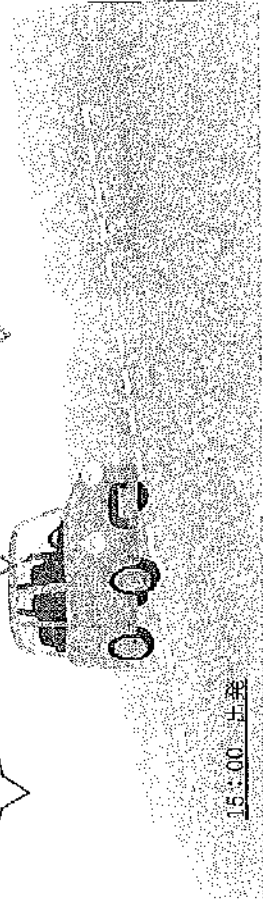
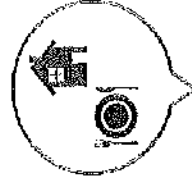
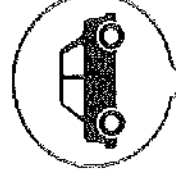
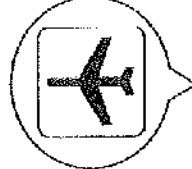
#フォトドライブ(15:30~)



- 2.看板
- 3.La Fonte
- 4.Big Tree
- 5.ハイビスカスロード
- 6.友情の鐘
- 7.見晴らしの丘
- 8.今井権現神社



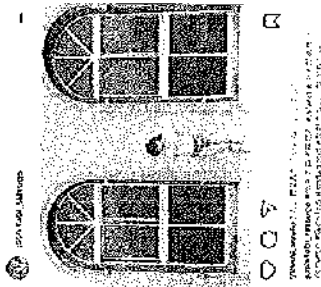
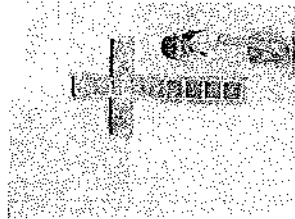
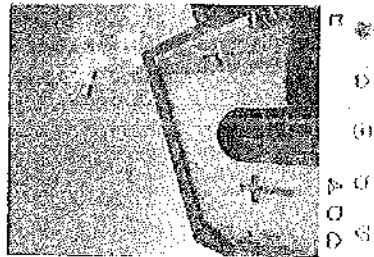
【1日目】



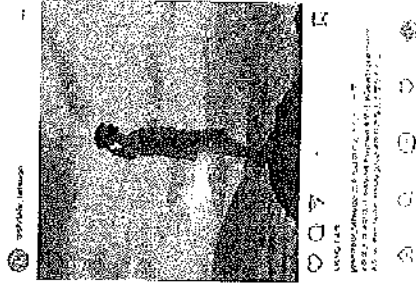
15:00 出発

#カラフル教会(17:00~)

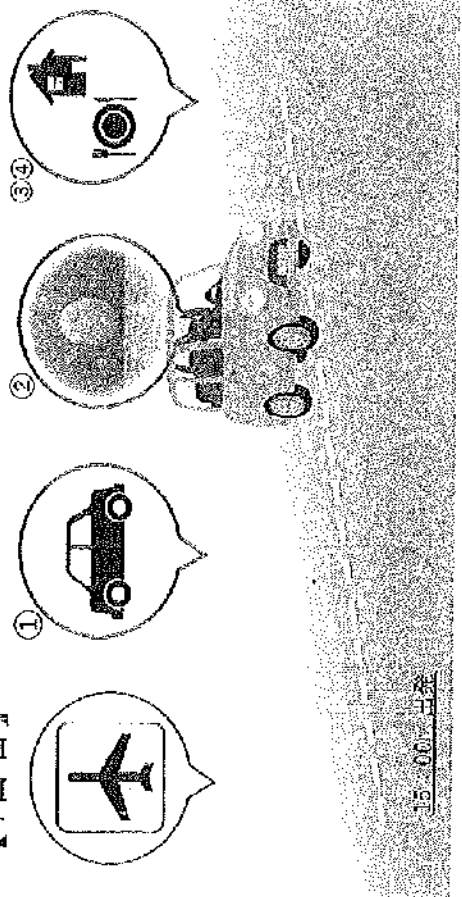
名称：カトリック空木区教会
 住所：木島湖町新木島2354
 メモ：3曜日にはミサが行われている



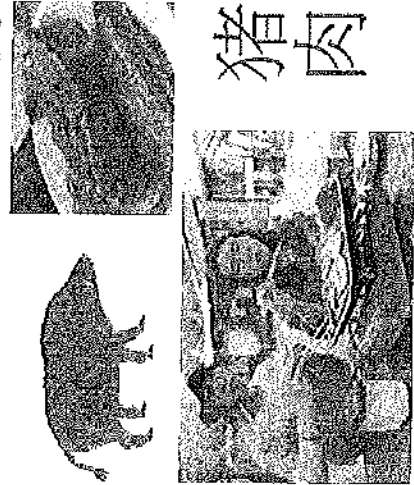
#できれば彼氏と来たかった(17:15~)



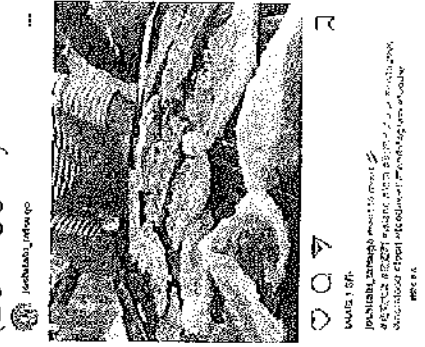
【1日目】



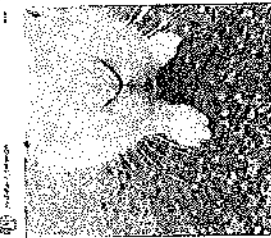
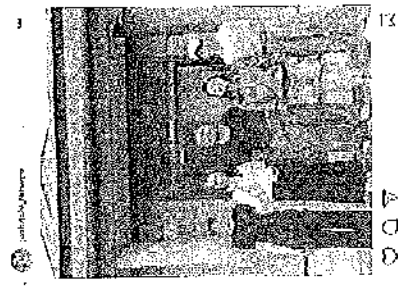
#奄美の恵みをいただきます(18:30~)



猪肉

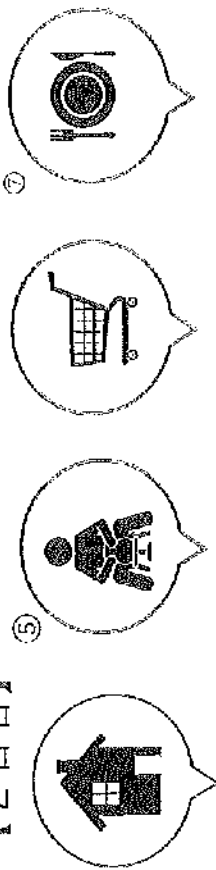


#民泊初挑戦

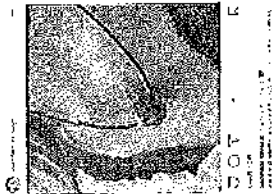


名称：民間あしんぼ
 住所：〒894-3613-1000
 鹿屋魚成木匠町型邸工本館2.5F
 予算：2000円(税)
 人数：～15人まで宿泊可
 ※また許可申請中のため、
 ※半年以降宿泊可能予定

【2日目】

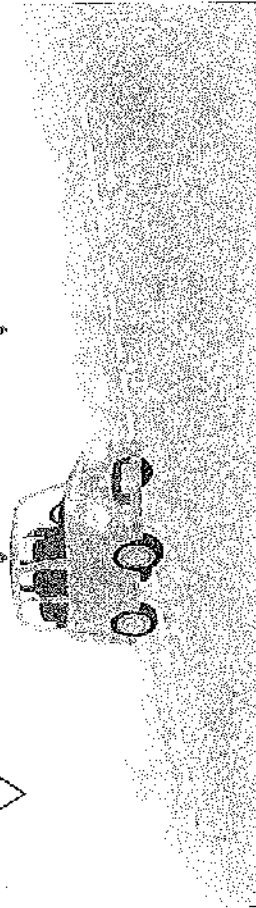
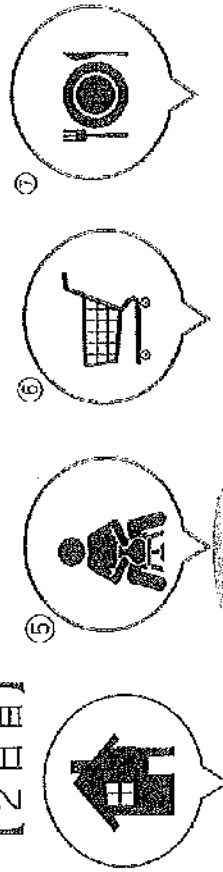


#匠の技、いただきます(10:00～)



※本日の順
 定休日：第2木曜日、正月、旧暦お盆
 営業時間：9:30～21:00
 性別：男女
 TEL:0997-62-3688

【2日目】

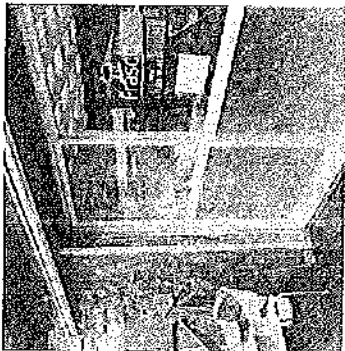


#龍郷をお持ち帰り(11:45~)



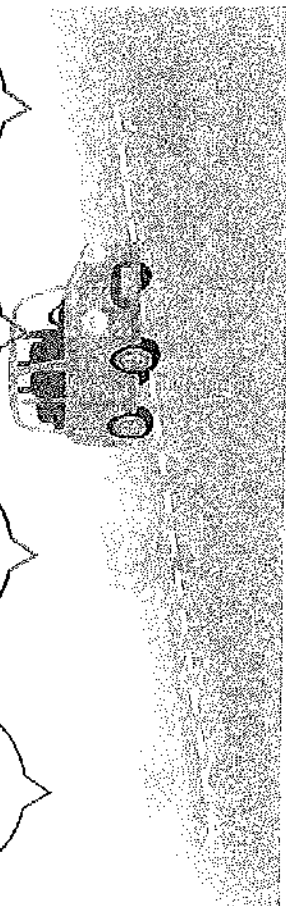
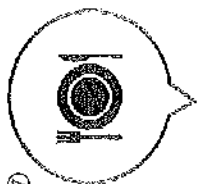
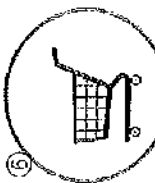
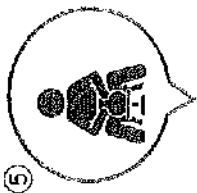
• Frasco
 • 定休日: 水曜
 • 営業時間: 9:00-18:00
 • 駐車場: 有
 • TEL: 0997-69-4435

Instagram: kochikochi



龍郷 龍郷 龍郷
 kochikochi kochikochi kochikochi
 〒997-6901 龍郷町 龍郷 龍郷
 TEL: 0997-69-4435

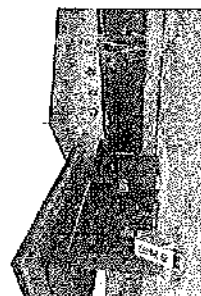
【2日目】



#龍郷といえは#鶏飯(12:30~)



龍郷 龍郷 龍郷
 〒997-6901 龍郷町 龍郷 龍郷
 TEL: 0997-62-2988



5. 予算

- 費用(概算)
 - 民泊 (夕食込) + 夢おりの郷 + Frasco + ひさ倉
 - ¥2000
 - ¥1500
 - ¥500
 - ¥1000 = ¥5000

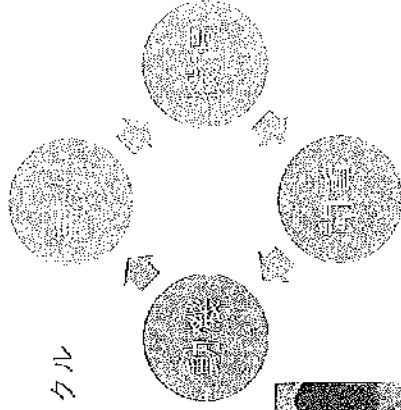
なんと宿泊費込み!!

6.まとめ

- ニューストパフォーマンズがよい
- 民泊をすること
- 流行を抑えている
- 新しい観光資源の発見
- 観光行動サイクルの創出

6.まとめ

- 観光行動サイクル



3.3 食・色・織(隅野由希絵、薬袋愛美、田中綾華、中原銀太、竹内ひとみ)

(1) はじめに

近年、旅行に対するニーズは多様化しており、特に若者の旅行に対する見解は「何か」を得るためのツールとしての部分が大きくなっている。多様化の現象が見られる一方、日本国民の旅行消費額は年々減少しており、観光庁の調べによれば平成16年から平成26年現在までの10年間で、8.3兆円の減少が見られたという。これに反し、訪日外国人旅行者の旅行消費額年々増加している。平成19年に観光立国推進基本法が施行され、平成24年にはそれに基づいて、観光立国推進基本計画が閣議決定されたが、そのほとんどが、訪日外国人の誘致に関する計画である。国内旅行に関する計画としては、「国内観光旅行による一人あたりの宿泊数を年間2.5日にする」ともとの分母が小さいことがわかる。最近では、「働き方改革」によりプレミアムフライデーなど働く時間を短くするための政策も行われ、余暇時間の増加が見られているが、20代の余暇時間の使い方は、IPC、スマホ」という意見が増えており、旅行は減少傾向にある。このように、現代の若者は、余暇時間の増加に伴いスマホ端末やPCでなんでも検索するようになったため、現地に足を運ぶという行動を起こさなくなっている。しかし、このスマホやSNSの発達により新しいチャンスが生まれた。Cyber Buzzの調査によれば、Instagramのユーザーは、10~20代だと70%以上が利用しており、女性ユーザーのうち61.5%が投稿に関するハッシュタグを検索し、40%が「購入経験がある」と答えた。このように、SNSのデジタルが若者に与える影響は大きく、SNSによる販売促進効果はこれからの国内旅行消費にも影響を与えてくれるのではないだろうか。



写真 3-5 メンバーの写真

(2) 企画内容

私たちは龍郷町の食べ物とモノ・景色の「色」に注目してコースを提案した。以下の虹の7色をベースとして龍郷町ならではの色を自分たちで作りました。

- ① ハイビスカス色 (赤) : まぐろ・ハイビスカス
- ② 夕日色 (橙) : アジアン料理・夕日
- ③ サンゴ色 (黄) : シュークリーム・サンゴ
- ④ ソテツ色 (緑) : 海ブドウ・ソテツ
- ⑤ 海色 (青) : 青パイヤ・海
- ⑥ 星空色 (紺) : 黒糖・星空
- ⑦ 大島紬色 (紫) : ドラゴンフルーツ・大島紬

選択肢をより多くし様々な学生のタイプに対応するために、宿泊先は決定していない。またオプションのスポットを加えるなどの工夫もしている。

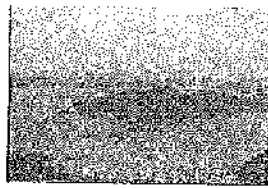
一泊二日の大まかなスケジュールは表 3-3 の通りである

表 3-3 タイムスケジュール

時間	1日目	時間	2日目
15:00	空港着	9:30	大島紬村 ⑦大島紬
15:30	奄美自然観察の森 ⑤海	10:30	ヘルシーアイランドカフェ ⑦ドラゴンフルーツ
16:20	今井崎神社→オプション	11:15	CAN.NEN SURF
16:35	安木屋場 ③サンゴ、⑥海	11:45	グリーンヒルカフェ ②アジア料理
17:20	ソテツの群生地 ④ソテツ	13:00	水間黒糖工場 ⑥黒糖
17:30	ドラゴントネル手前 ②夕日	13:30	ピック2 ⑤青パパイヤ
18:30	漁師料理番屋 ①まぐろ、④海ぶどう	13:45	こっこ家 ③シュークリーム
20:00	倉崎ビーチ ⑥星空	14:00	手広ビーチ ⑤海

1日目

15:00に奄美空港に到着したらレンタカーで奄美自然観察の森へ移動する。この奄美自然観察までの所要時間は車で約30分であるため15:30ごろに到着する予定だ。この森では奄美大島の貴重な動植物を観察することができる。入口のゲートから数分ほど階段を上ると展望デッキにたどり着く。そこまでの道のりは緑に囲まれ、軽くハイキングを楽しめる。しかし足場はよくないので歩きやすい靴でのいくことをおすすめする。展望デッキからは龍郷湾と奄美クレーターが一望できる。ここで⑥海を楽しむことができる。(写真3-6中a) 見晴らしがとてもいいので写真を撮るのに持ってこいの場所だ。美しい景色を見られるスポットはここだけではない。オプションに設定した今井崎神社でも海的美しさを堪能することができる。(写真3-6中b) この場所をもっと眺めのいい場所はないかと探していた際に偶然見つけ、コースに加えることになった。しかしこの場所までの道のりは未舗装の上り坂であるため、それなりの運転技術が必要である。運転に自信のある方には是非行っていただきたい。次に向かうのは安木屋場集落にある海岸だ。(写真3-6中c-1) ここにはたくさん③サンゴがあるためお土産として持ち帰ったり、サンゴを使って文字を作ったりと楽しむことができる。(写真3-6中c-2) 静かな場所なので波の音を聞きながらゆっくりと過ごすことができるだろう。17:20にはソテツの群生地へ行く。(写真3-6中d) ソテツは現在盆栽として知られているが、奄美大島では幹や表からデンプンをとる救荒植物として利用されてきた。そのほかの用途でも幅広く活用され奄美の人々の暮らしになくてはならない植物である。ここでは圧巻の④ソテツが楽しめる。17:30、そろそろ日が暮れてくる時刻だ。私たちは夕日を見るスポットして「かがんばなトンネル」の手前を選んだ。この場所は毎年秋分の日の前後、それぞれ2週間ずつ夕日をトンネル越しに見ることのできる「龍の目」で有名である。10月下旬には「龍の目」は見ることができないが、それでもとても綺麗な②夕日を見ることができる。(写真3-6中e) 18:30からは龍郷町の海の幸を楽しむ。漁師料理 番屋は龍郷漁港の向かいの位置にある。40年以上続く地域の名店で、奄美では珍しい海の幸に特化している。お店で利用する魚介類の漁自体もお店の家族で行っているためリーズナブルな値段でいただくことができる。料理には汁物として「イカスミ汁」をつけてくれる。見た目が真っ黒で味が心配になるかもしれないが、飲んでみると出汁がよくきいてとても美味しい。①まぐろ(860円)と④うみぶどう(300円)を頂き腹ごしらえは完璧だ。(写真3-6中f-1、2) 1日目の締めくくりは20:00 倉崎ビーチで見る⑥星空だ。晴れていて月が出ていない夜にはより多くの星を楽しむことができる。ただし夜は意外と肌寒いので羽織るものがあるといいだろう。



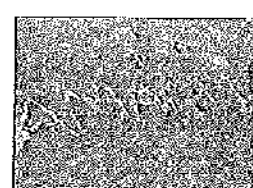
a 展望デッキからの海



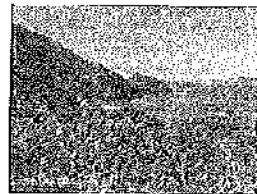
b 今井崎神社



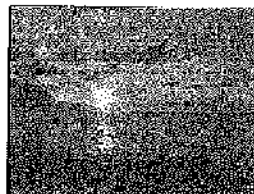
c-1 安木屋場



c-2 サシゴ



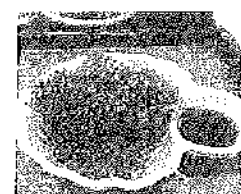
d ソテツの群生地



e かがんばなトンネル手前からの夕日



f-1 番屋のまぐろ



f-2 海ぶどう

写真 3-6 第 1 日目のスポット

2 日目

宿泊先で朝食をとってから 9:30 に大島紬村に到着する。駐車場に咲いているハイビスカスからは南国の雰囲気を感じ取れる。(写真 3-7 中 a) 大島紬村では奄美大島の特産物である本場⑦大島紬の生産の全工程の見学や泥染めなどの各種体験できる施設を、南国亜熱帯植物庭園の中で楽しむことができる。入場料(大人 500 円、子供 200 円)となっている。すべて手作業で行っているとは思えないその職人技に驚くこと間違いなしだ。(写真 3-7 中 b) また大島紬のミサンガなども売っているのでお土産に買うことができる。

10:30 からヘルシーアイランドカフェで⑧ドラゴンフルーツのスムージー(500 円)とヤギのミルクで作られたソフトクリームをいただく。(写真 3-7 中 c) このお店は「それいゆふあ〜む」内にある農園カフェであり、農園でとれた野菜や卵、ヤギミルク等を使い美容と健康を考えたヘルシーフードを提供している。内装もおしゃれでちょっと一息つくのにぴったりの場所だ。次に向かうのは CANNEN SURF というサーフィン用具を売っているお店だ。ここではサーフィン用具だけでなく貝殻などを使ったアクセサリも販売している。(写真 3-7 中 d) 2 日目の昼食は GREEN HILL CAFE で⑨アジア料理のタコライス(1000 円)をいただく。(写真 3-7 中 e) このカフェはタイ料理をメインに島の食材を使ったおいしい料理とドリンク・季節限定スイーツなどを提供している。とてもお洒落な雰囲気ランチを楽しめる。店内にショップがあり料理を待っている間に見て回ることもできる。13:00 からは水間黒糖工場でさとうきびの旨み・甘みが凝縮されたやさしい素朴な味の⑩黒糖(350 円)を味わう。(写真 3-7 中 f) 13:30 に龍郷町の大型スーパー、ビック 2 へ行き⑪青パパイヤ(230 円)の漬物を買う。(写真 3-7 中 g) 漬物のほかにも奄美大島のお菓子などが沢山売っているので、珍しいお土産も発見できるだろう。ビック 2 には食料品の他にも衣類、100 円ショップまであるのでここでガラスの小瓶を買い、この後に行く手広ビーチに持っていくことをおすすめする。小腹が空いてきたところで 15:45 こっこ家で⑫シュークリーム(166 円)をいただく。(写真 3-7 中 h) 店内に入るとふわっと甘い香りがするため、スイーツ好きにはたまらないだろう。自社生産した卵を使ったスイーツを提供しており、奄美大島の特産農産物とコラボレーションしたオリジナルスイーツも販売している。シュークリーム以外にもマドレーヌやクッキーなども販売している。そして、旅の締めくくりに 14:00 から手広ビーチで自由に遊べる時間を設けた。ビック 2 で購入した小瓶に貝殻を詰めて写真を撮ったり、シーグラスを拾い集めたり、砂の城を造ったりと遊び方は自由だ。(写真 3-7 中 i) 波の音に癒されながら一泊二日の旅を振り返る有意義な時間を過ごしていただきたい。

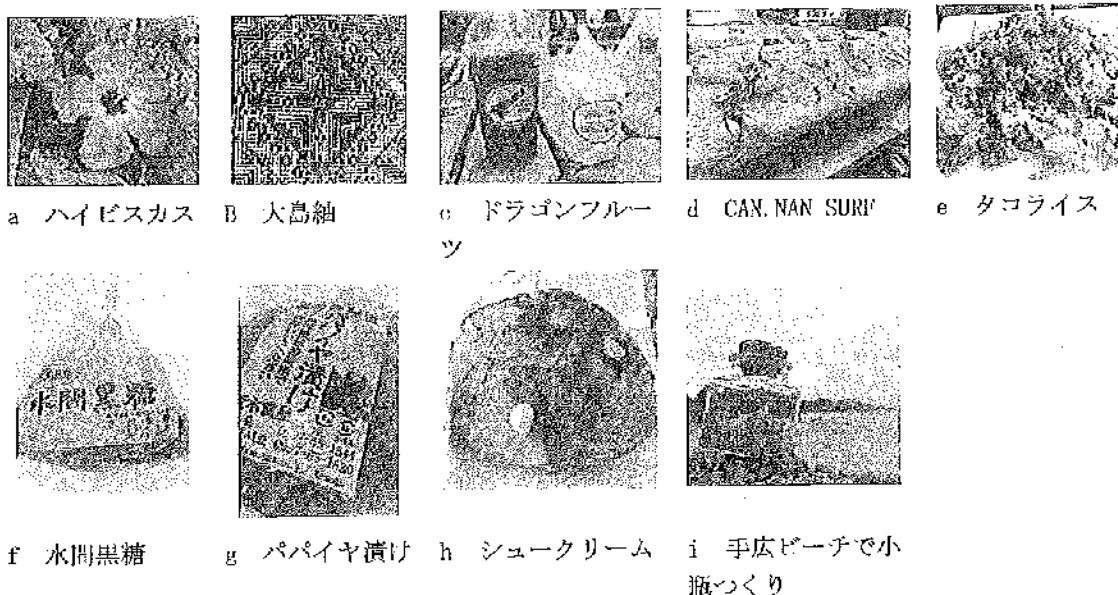


写真 3-7 第 2 日目のスポット

以上、私たちが提案するツアープランである。旅をしていくにつれて「色」を通して龍郷町の魅力を知ることができる。この旅の予算は 1 日目の番屋での食事 1160 円、2 日目は大島紬村の人場料 500 円、ヘルシーアイランドカフェ 500 円、GREEN HILL CAFE の食事で 1000 円、水間黒糖 350 円、パパイヤ漬け 230 円、こっこ家 166 円。合計で 3906 円である。価格の低さもこのプランの魅力である。5000 円までまだ余裕があるため自由に好きなものを購入することができる。

(3) ツアーの効果

今回私たちが企画したこの「食・色・織旅」では、次のような効果があると考えられる。

- ① 龍郷町の隠れた観光スポット、地産食材の開発、発信
- ② 龍郷町の観光収入の増加

まず、①龍郷町の隠れた観光スポット、地産食材の開発、発信については、このツアーのコンテンツがメジャーなスポットだけではなく、あえてあまり知られていないスポットも盛り込んでいるため、これまで認知されていなかったスポットの開発、発信が可能である。近年、SNS の普及率は増加しており、総務省の調査によれば 2012 年からスマートフォンの普及に伴い全体で 41.4% から 2016 年には 71.2% に増加したという (図 3-4 参照)。10 代から 20 代で見ると 97.7% は SNS を利用している。SNS の利用による購買行動の変化については、はじめにの部分でも触れたが、Instagram 利用者女性の 40% が投稿に関する商品を購入したというデータがある。今回の私たちのターゲットである女子大学生 3 人程度のグループであれば SNS を媒体として龍郷町の隠れた観光資源を発信することができ、さらなる観光客の誘致が可能である。

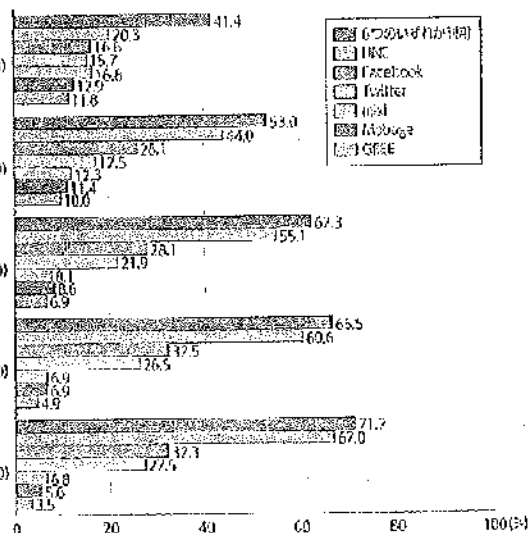


図 3-4 SNS の普及率

次に、②龍郷町の観光収入が増えるという効果である。これは単純に龍郷町の中を巡るツアーであるため、

龍郷町の産業にお金が落ちるということであるが、それ以上の効果もあると考える。今回のモデルコースの提案において発表の場を設けることができ、地元住民の武野さんから貴重な意見を得ることができた。それは、各集落に観光客向けの公共施設が少ないというものであった。確かに、私たちがこのモデルコースを作る中で、実際にツアー肯定に従って回っていたところ、トイレや自動販売機などのスポットが少なかつたが、これは観光を進める上で大きな問題である。奄美大島の南の地区には各集落に公共トイレなどが設置しており、観光客が観光スポットを巡りやすくなっているという。龍郷町の観光収入が増えることにより、税収が増え公共トイレなどを設置すれば、さらなる観光客の増加が望めるのではないだろうか。

(4) 考察

最後にこの企画が龍郷町に与える影響を考察していく。龍郷町には沢山の魅力がある。その「町の魅力」を地域住民や龍郷町を訪れた観光客が発信していくことが重要なことであると考え。特に現在は、ITの発達で情報伝達がスムーズで誰でも簡単に情報を公開することが出来る。特に若い世代は「SNS」を駆使して旅行先で撮った写真などを友人や自らのフォロワーに共有している。先ほども述べたように私達の企画は、こうした「SNS」を存分に活用してほしいと考え今若者のトレンドと言っても過言ではない「インスタ映え」に目を付けた。そして、ターゲットが女子大学生ということもあり予算やニーズに合わせて宿泊先やオプションコースを選択できる自由度の高い内容となっている。若者の宣伝効果は大きいと考える。投稿が拡散されれば多くの人が目にするので影響力もとても大きいものであると考える。もし、観光客が増えれば、龍郷町内の宿泊施設や交通状況もさらに良くなっていくだろうと考える。このように良いサイクルを実現するには、まず、龍郷町を知ってもらう事から始めなければならない。知ってもらうには、龍郷町のことを発信していくことがやはり重要であると考え。

また、私達の企画のターゲットが女子大学生であることにも意味がある。近年「女子旅」という言葉をよく耳にする。女性だけで旅行に行くスタイルやあるいは女性1人で旅行に行くというスタイルも増えてきているという。女性は特に「SNS」の利用率が高いので影響力はとても大きいと考える。

さらに、図3-5のグラフを見ると分かるように女性の旅行に対する好感度は高い。特に、20代の約4割が旅行が大好きだと回答しており、数値が高い。若い世代であるほど好感度が高いということが分かる。つまり、若い世代の女性をターゲットに絞ることにより、宣伝効果も「SNS」の利用で上がり、それにより多くの観光客が龍郷町を訪れるようになるであろうと考える。

観光客が増え、観光収入でより活性化していけばまた新たな観光活動の可能性が広がるのではないかと私達は考える。

年代	大好き	好き	嫌い	その他
20代	37.20%	33.40%	25.50%	3.90%
30代	33.70%	39.40%	23.90%	3.10%
40代	23.30%	41.40%	31.40%	4%
50代	25.70%	38.70%	29.80%	5.80%
60代	24.30%	38.90%	32.20%	4.60%
70代	22.90%	44.50%	27.80%	4.80%

出典:財団法人交通公社 JTB旅行者動向調査2008

図3-5 女性の旅行に対する好感度

参考文献

- ・サイバーバズ INFORMATION ソーシャルライフラボ
<https://www.cyberbuzz.co.jp/2016/09/instagram6-4.html>
- ・総務省 情報通信白書
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/>
- ・財団法人交通公社
<https://www.jtb.or.jp/>

チーム名	WE GO 龍郷!!	
メンバー	隅野由希絵	葉袋愛美
	田中綾華	竹内ひとみ
	中原銀太	
タイトル	食・色・織	
テーマ	7しよく（色、食）を巡る旅	
想定するターゲット	女子大学生三人程度	
概要、特徴	本十在住の女子大学生三人程度をターゲットに7つのテーマカラーを持った食を巡る旅。女子大学生グループが媒体となり、島内外の人に龍郷の魅力をとともに探すために美味しいご飯と、それぞれのテーマカラーにあったビュースポットを盛り込んだモデルコース。様々な大学生のニーズに応えられるよう、オプションコースも加え、ホテルも選択制にすることで自由度の高いコースとなっている。	
基本事項	日程	24時間
	宿泊地	リッチ：てびろ K's ヴィレッジ
		リーズナブル：うふた、結の家
		Ocean View:ネイティブシー奄美
金額	3514円	
日程	day1 15:30 奄美自然観察の森 ※1 →#5 海 16:20 今井崎神社 16:35 安木屋場 →#3 サンゴ、#5 海 17:20 ソテツの群生地 →#4 ソテツ 17:30 かがんばなトンネル手前 →#2 夕日 17:00 漁師料理 番屋 ¥860+300 ※2 →#1 まぐろ、#4 海ぶどう 20:00 パラグライダー離陸場 ※3 →#6 星空	day2 9:30 大島紬村 →#7 大島紬 10:30 ヘルシーアイランドカフェ ¥500 →#7 ドラゴンフルーツ 11:15 CAN.NEN.SURE 11:45 グリーンヒルカフェ ※4 or 和風茶屋こっち ¥1,000 →#2 アジアン料理 13:00 水間黒糖 ※5 →#6 黒糖 13:30 ビック2 ¥108+¥230 →#5 青パイヤ 13:45 こっこ家 ¥166 →#3 シュークリーム 14:00 手広ビーチ →#5 海



When 10月12

Where 龍郷町

Who

本土に住む女子大生3名程度が
大学生を媒体として島内外の人
と繋に龍郷の魅力を探すために

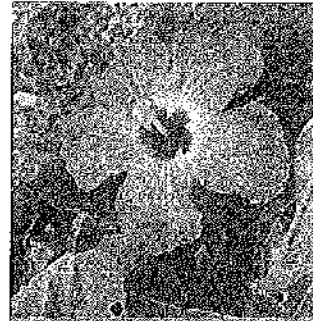
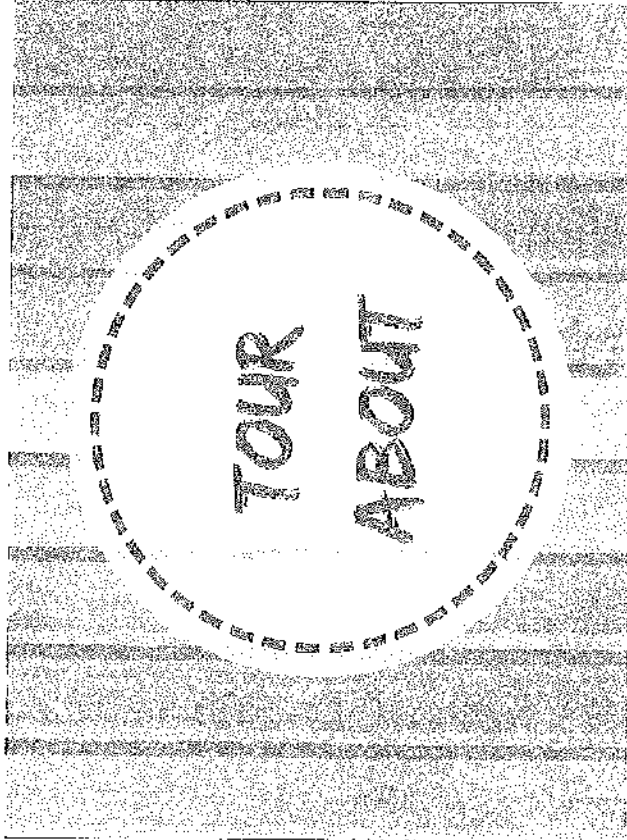
Why

How

7つの「アカギ」を通して

What

食と景色をめぐる



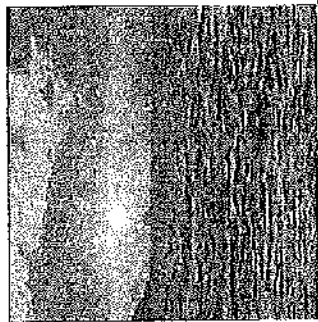
ハイビスカス色

Red

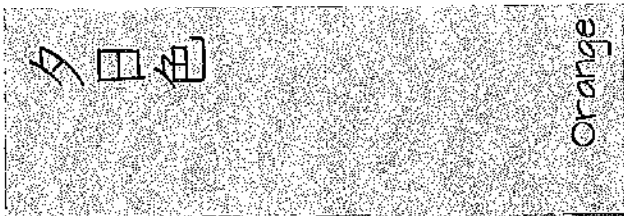
ハイビスカス



まぐろ



夕日

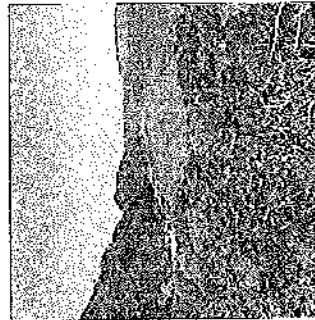


夕日色

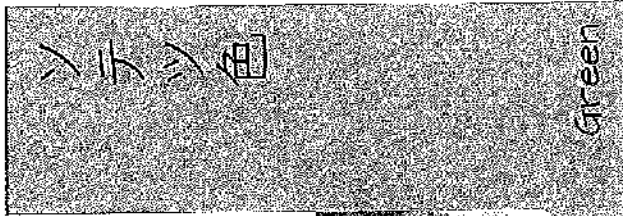
Orange



アシアン料理

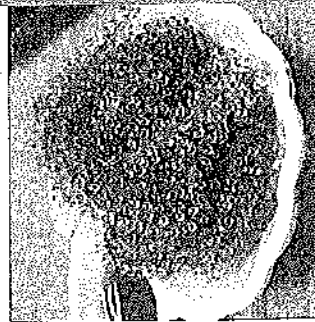


ソテツ

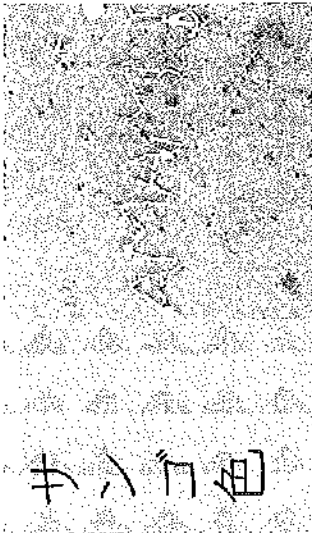


ソテツ色

Green



海ぶどう



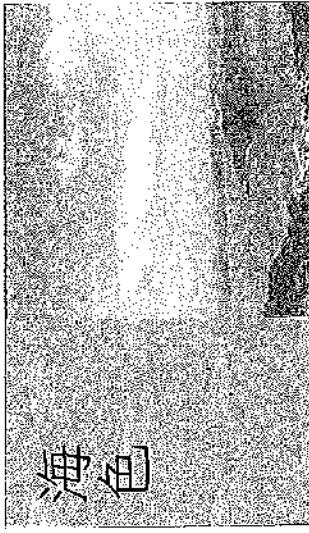
サンゴ色

Yellow



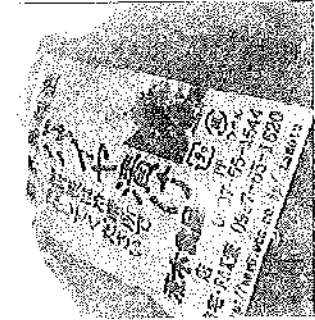
サング

シュークリーム



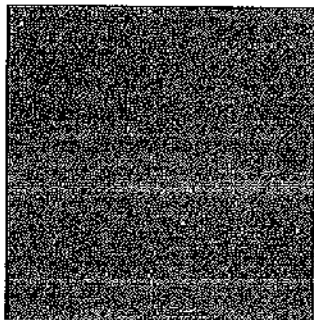
海色

Blue



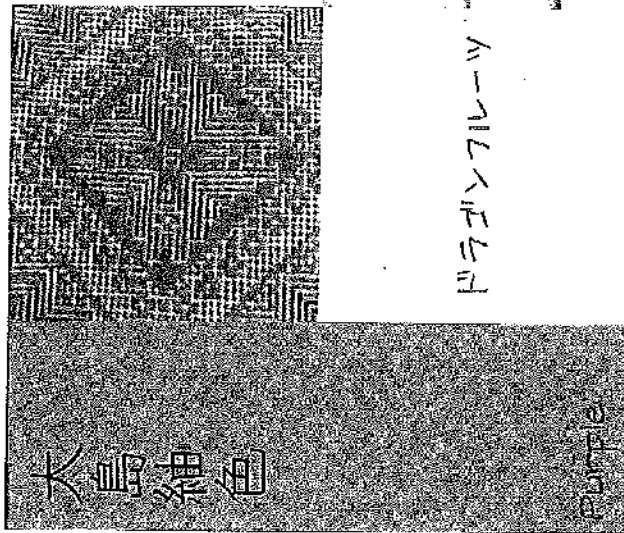
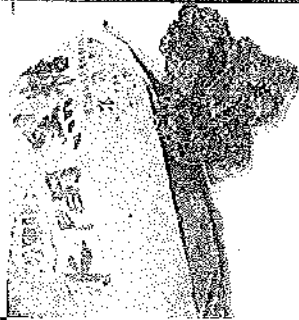
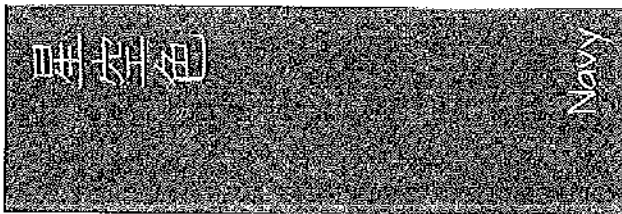
海

青パイヤ

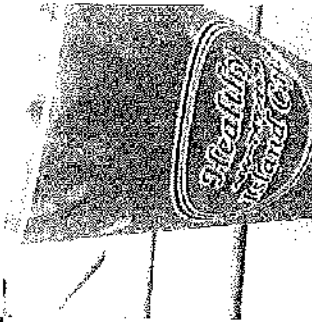


黒糖

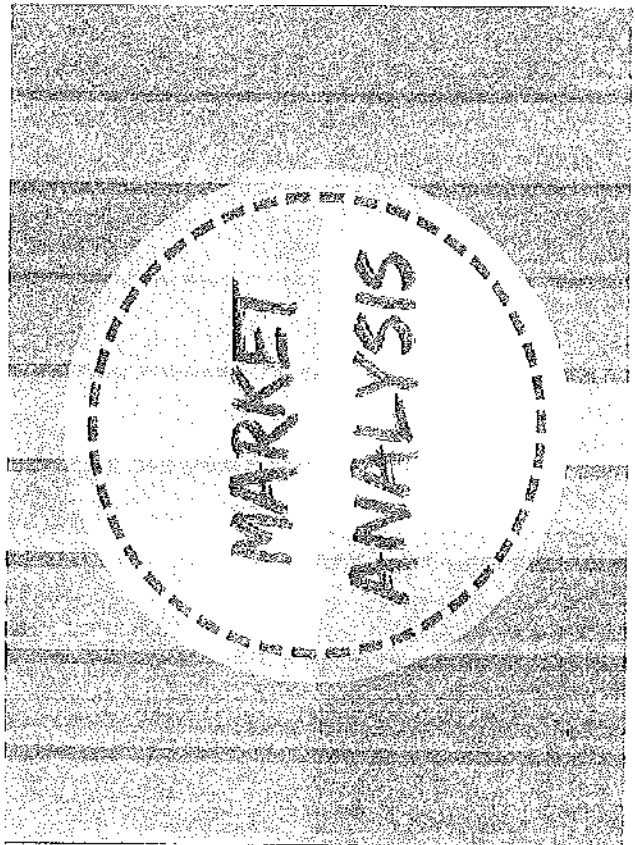
星空



大島紬



ドラゴンフルーツ



女性の旅行に対する好感度

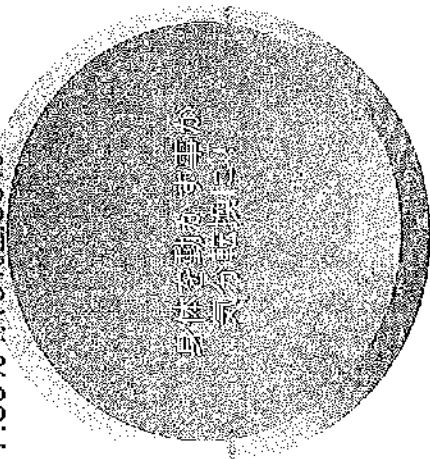
20代	37.20%	33.40%	25.50%	3.90%
30代	33.70%	39.40%	23.90%	3.10%
40代	23.30%	41.40%	31.40%	4%
50代	25.70%	38.70%	29.80%	5.80%
60代	24.30%	38.90%	32.20%	4.60%
70代	22.90%	44.50%	27.80%	4.80%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

大好き 好き どちらかといえないほど嫌い 嫌い

出典：株式会社日本交通公社「JTB旅行者動向調査2008」

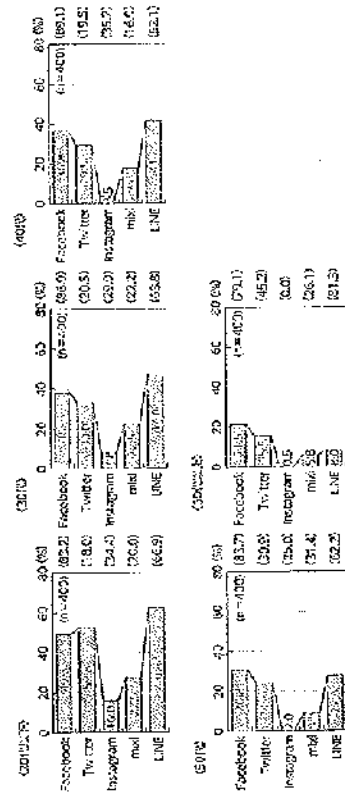
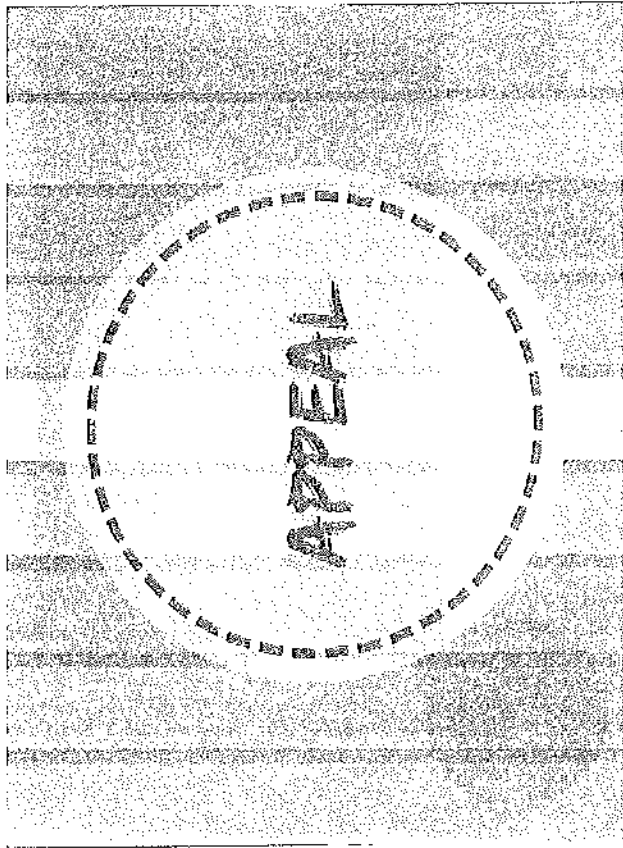
旅行で1番得たいものは何か?
7.80% 4.10% 2.90%



女子のニーズは何か?

- 癒し、リラックス
- 長分転換
- 刺激
- 交流、出会い
- その他

出典：株式会社LIB調べ

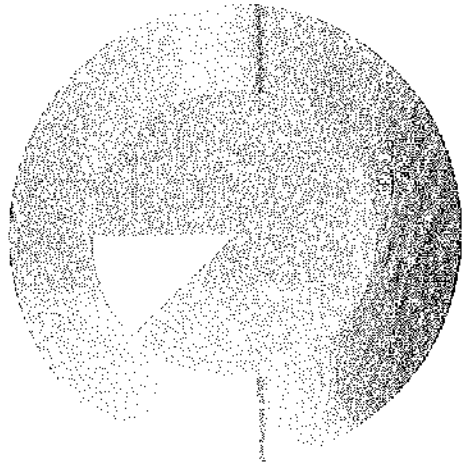


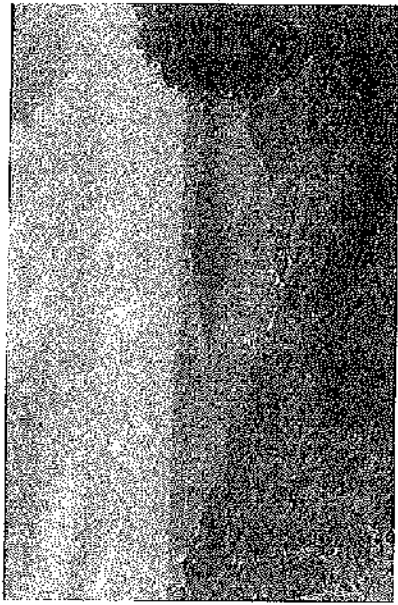
出典：総務省 情報通信白書

INSTAGRAM

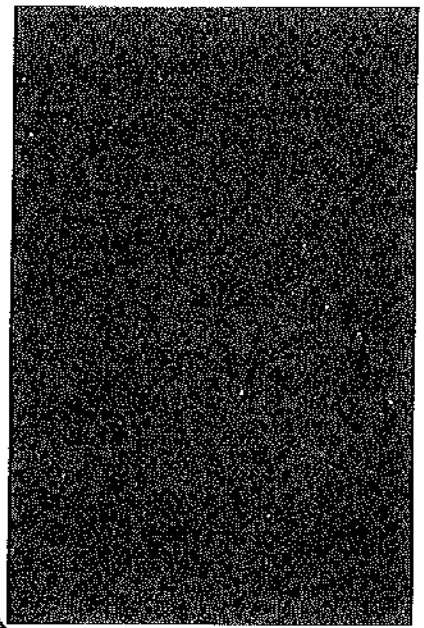
Instagramを見ては旅行や旅
樂などの何かしらのアプレ
ションを起こした経験がある

出典：サイバーパス

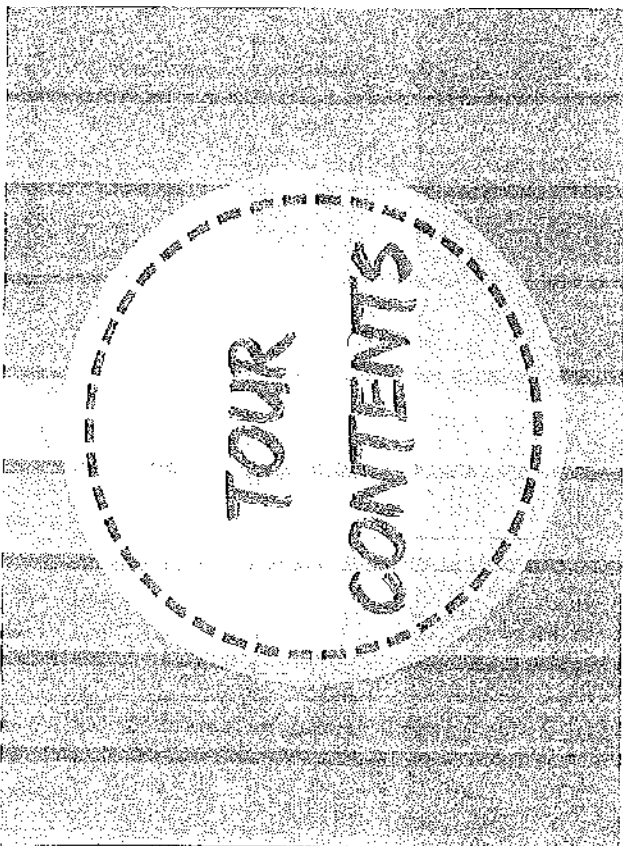




GOOD POINT



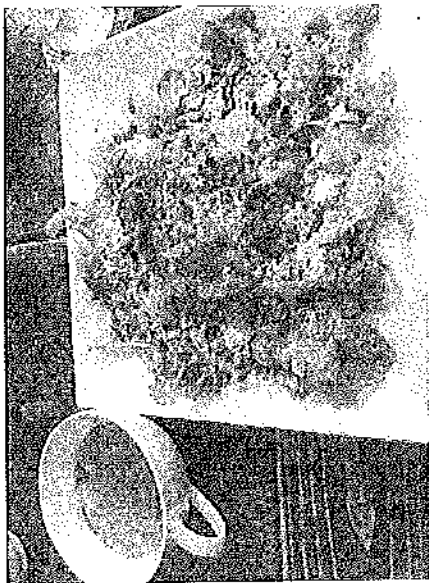
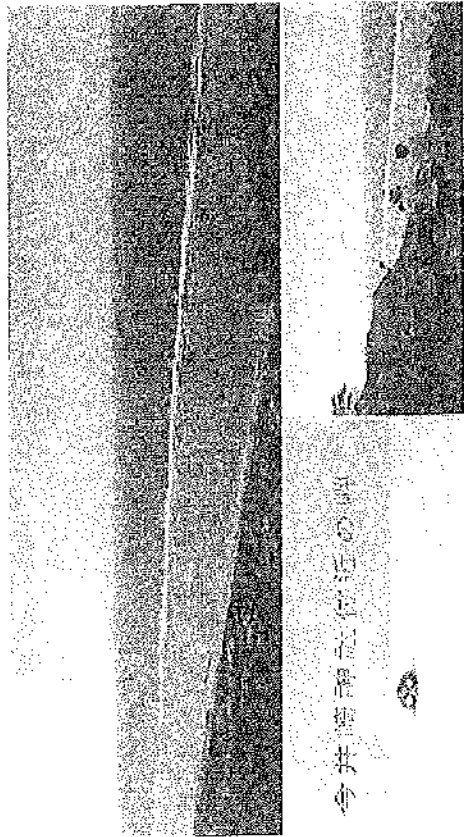
GOOD POINT



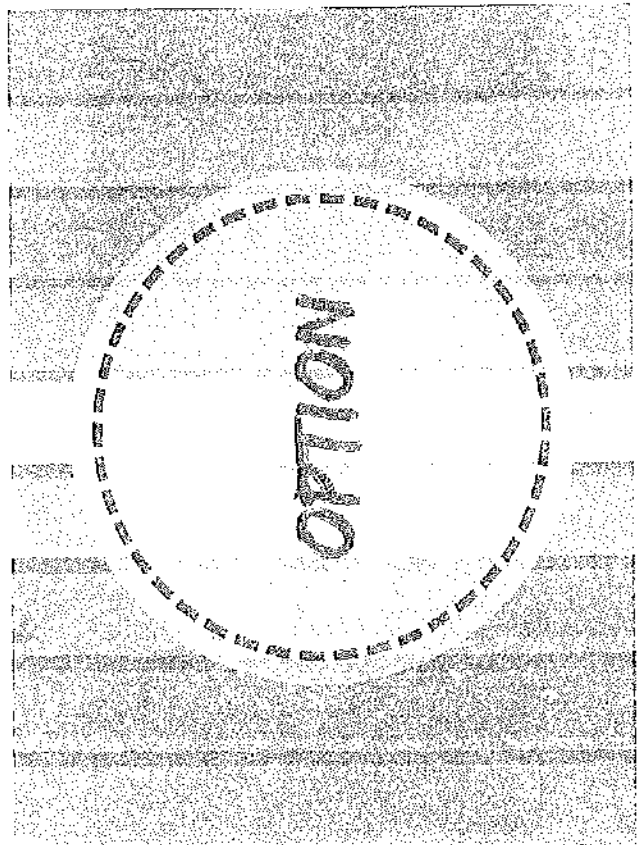
GOOD POINT

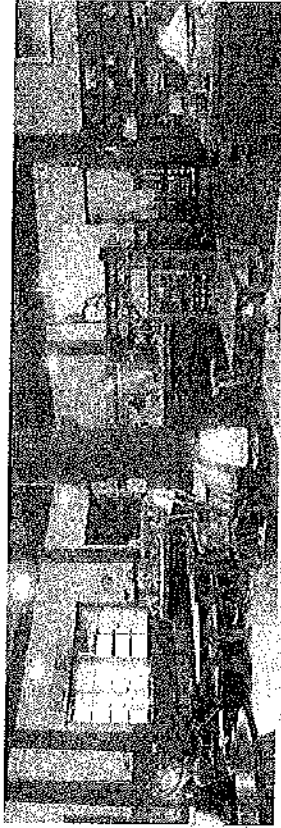


GOOD POINT



GOOD POINT





和風茶屋こっち



CAN-NEN SURF

